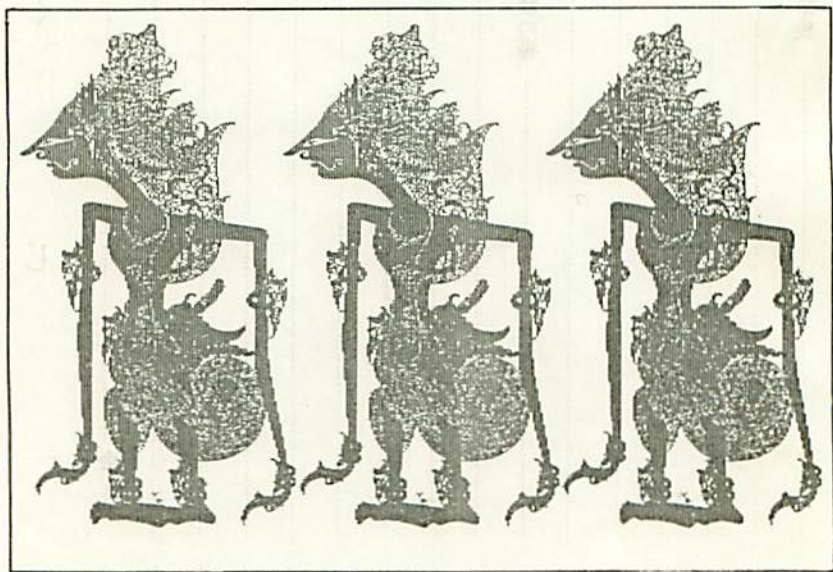


国際理解

第 3 号

1 9 8 5



インドネシアかけ絵劇 ワヤン・クーリット

岡山県国際理解教育研究会

第三号の発刊によせて

会長

三宅正勝 1

米と私

安部町江 4

カラカスのできごと

赤坂英二 9

カラチ日本人学校の思い出

藤木靖史 12

台湾の開拓と林本源

岡本利和 19

地方の国際化と帰国教師の役割

三宅正勝 24

バツハの生家

三宅詠子 26

藤本さんの警句

南井滋野 29

パパガイオはだれ?

岡本淑明 32

海外こそ異質文化を持つ人間との接触体験の場

鈴井清 35

インドネシアの教育事情

井関繁孝 37

不思議の国：ペルー

安達忠己 46

文化の違い習慣の違い：撫でると掴む

小坂田孟 56

第一回国際フィルム祭を開いて

黒田忠男 59

ホンダイ・スリランカ

沼本泰知 61

現地だより ・ プエノスアイレス日本人学校

佐川慶三 76

附

・アルジェダより	垣見憲治	78
・ラゴス日本人学校	秋本賢治	82
・クワラルンパール日本人学校における国際交流・国際理解への取り組みについて	増田節男	84
・フエノスアイレスだより	佐川慶三	86
・ベレーン日本人学校	菊田治	87
・マレーシアだより	岡本善弘	91
・エアーズ・ロックの思い出	大谷裕子	102
・第八回海外派遣教師の集い(要項)		104
・岡山県海外日本人学校派遣者名簿		105
・現派遣者名簿・本会役員名簿		106
・岡山県国際理解教育研究会を則		107
・「世界の国々を見よう」―第一回国際フィルム祭(要項)		108
・派遣教師の集い記念写真		109

第三号の発刊によせて

会 長 三 宅 正 勝

「国際感覚を磨く」「国際性を養う」という言葉は、今では決まり文句として使われるようになりました。従来これは、国際関係等の会合で盛んに耳目に接していたものです。が、現在ではどのような席上でも必ず発せられる言辭となっています。

学校教育の現場においても例外ではありません。学校においては、道徳や社会科の中で「世界の人から信頼され尊敬される日本人」の育成をめざすとともに「国際社会に貢献し、世界の平和と人類の幸福を達成する」ことの重要性が説かれています。このことは、年々国際化現象が進み、広がってきたことにより、身近な問題として痛感しているところでもあります。

このような情勢の中で、豊かで確かな国際体験の持ち主である、この会のメンバー一人ひとりが果たす役割は、重要であると考えます。私達の会は、ささやかなものではありませんが、国際感覚を身につけ、国際性を養う点では、人後に落ちない良識を備えた人々の集りです。

私達の会は、各方面から「ユニーク、かつ貴重な存在である」と評価され、期待されております。私達はそれを誇りに思い光榮であると感じています。なにも気負うことはありませんが、「国際理解教育の一端は、自分達が率

先して担おう」という使命感は忘れることなく、いつまでも燃やし続けたいものです。

「貴重な海外体験が、個人だけのものとして埋もれることのないよう、会員一同が協力して国際理解の教育のために尽そう」と決意して結成された会であり、発刊された冊子であります。国際性を養うことの重要さは理解でき、国際感覚は磨かれたにもかかわらず、それを生かし、広める方策が取れないとしたら、これほど情ないことはありません。

諸外国との交流が一段と進み、日常的になってきた現在、「次代を背負う若者に国際性を身につけさせる」ということが、絵空ごと、空文にとどまっただけではなりません。

岡山県教育委員会におかれましては、いち早く「国際性の涵養」を採り上げられ、新設高等学校において、全国でも例の少ない「国際科」を新設されるなど、今日的課題に取り組まれております。また、海外派遣教員、帰国教員、帰国子女等についても、深い御理解を示され、援助の手をさしのべておられます。これらのことについて感謝と敬意を表したいと思います。

機関誌「国際理解」は、日本各地からの問い合わせや受注があり、私達も面目をほどこしていますが、さらに充実したものにするため、皆様方の温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。今回は「急がず休まず」に加えて「ゆっくり急げ」を銘といたします。

米 と 私

ペナン日本人学校（マレーシア）
和氣町立石生小学校 安部町江

今日の献立

シーフッド ピラフ

サラダ

フルーツ（バナナ）

牛乳

これは、昭和六十年度のある日の学校給食の献立である。このシーフッドピラフに、マレー米を使ったら、さぞおいしい焼き飯になったろう。（粘りのある日本米はどうしても団子になって固まる部分ができる）よく熱れたバナナのもぎたては、もっとももっと甘くておいしい。半分に切ったりしなくても、小さい十皿もないバナナもあるのに、サラダはいつこの国で食べてもおいしい。ご飯に牛乳の混ぜ合わせは、私は好きではないが、子ども達はおいしそうに食べている。

二十一世紀を生きる子ども達の味覚は、どのようになるのだろうか。私は、自分の味覚を私の出会った米によって養ってみようと思った。

1 日 本 米

私は学校給食で、時々パンを食べる以外は、殆んど米を主食としていた。しかも、自分で食べる米は自分で作っている。それは、雄町・朝日・農林十七号・新千・アケボノなどおいしいと言われている品種ばかりであった。

・雄町は虫がつきやすい。

・朝日は早く熟れるので、農作に支を作らない私の家では、早くとりいれるより、よく熟らしてからとりいれる方がよい。

そこで、私の家では、二、三何年もアケボノを作っている。虫予防の消毒もしなければ、除草のための薬も撒かない。昔のままの田植をし、手で草を取って米を作るのである。

同じ品種のアケボノでも、とりいれが終り新米を食べ始める時、一段と米の味が上ってくる。一年たてば味もだいぶ落ちてくるのだ。始めて新米を食べた時の味は格別であるが、このことについて私が話しているのを聞いた友人は、「私の家の人もそんなことを言っているが、配給米で育った嫁の私には、その味がわからない。米であつたらみな同じ味がする。」と言っていた。

学校給食で出される米は、めったにおいしいと思つたことはない。もともと米が悪かったり、炊き方などに原因はあろうが、カレーであつたり、味付けご飯であつたり、副食でごまかしたりして食べている。栄養のことを考えないから、ほんとうにおいしい米は、わずかな塩分を加えれば（おむすびでもよい）も

うそれだけで最高においしい。

だから私は学校給食ではごはんよりパンの方が好きだ。

2 イタリア米

はじめて海外旅行（ヨーロッパ）をした時のことである。日本より持参した食べ物は、わずかなおやつだけであった。日本のように自由に水を飲むこともできない。

おなががすいて、本場のマカロニーを食べに行った。店に入ると鼻をつく一種独特なにおい。私は気分が悪くなったが旅の疲れだろうと思ってがまんしていた。運ばれて来たマカロニー。このミートソースのにおいだ。その店は満員の客で、現地の人ほみんなおいしそうに食べている。しかし、私ばかりでなく私の友人は皆、殆んど残してしまった。「あーあ、おなががすいた。でも食べられない。こんな状態が何日か続いた。

やっと日本料理店のメニューサンプルで、おむすびとみそ汁を見つけた時の母は例えようもなかった。ためらうことなくそれを注文した。（ホテルまで友達のを買って帰ってあげよう。今晚食べる私の分もと思いつながら）運ばれて来たおむすびは見た目は日本のそれと全く同じであった。大きな口を開けて一かぶりしたとたん、口の中にいっぱいになった。飲み込めない。なんてこはんだらう。私はみそ汁とお茶で流し込んだ。これは味の全く違ったイタリア米であることを後で知った。

3 マレー米とオーストラリア米

三年間マレーシアに滞在することになった私に、父は、「お米を三年間送ってやる」と言ってくれた。（第二次大戦中にラングーン米が配給されたことがあるが、私がそれに箸を付なかったことを知っているからである。）しかし、このことは輸入禁止のマレーシア国法が厳しくて実現しなかった。

マレーシアに着いた時、日本米と全く同じ型で同じ味のオーストラリア米の三キロ入りの袋を一つもらった。三か月に一度くらいわずかばかりのオーストラリア米が配給されること

になっており、新しい先生の分として、一袋確保してくれていた。

マレー米は、インド型のバサバサした米で、日本式に弁当箱へ入れて弁当を持って行く、箸では食べにくく、まかすまいとすれば、弁当箱を口に当てないと箸には乗らなかつた。値段は安くオーストラリア米の半値で手軽に買った。

行った当時、オーストラリア



マレーシアの野菜作り



米の配給がなかなかもらえず、その間をマレー米と一袋のオーストラリア米を混ぜて食べ、その割合もだんだんとマレー米のパーセントが上がり、ついにマレー米ばかりになった。

現地の人が、「マレー米にもち米を混ぜて炊くと良い。」と教えてくれたので、それも試みた。マレー米の炊き方も教えてもらった。現地の人の炊いた味付けご飯を何度も馳走になった。主都クワランプールの日本人学校の先生が「こちらではオーストラリア米は自由に見えるから買いに来るよ。」と知らせてくれたので、飛行機に乗って買出しに行ったこともあるし、郵便で送ってもらったこともある。

その後、私の所でも、オーストラリア米がたくさん買えるようになった。日本料理店も二軒できた。

オーストラリア米ばかりが食べられるようになったころ、私はその日もお世話してくださる日本人会で、たくさんのオーストラリア米を買った。少し虫がいたが暑い国のことだし、虫がいるのも当然だろうと考えていた。しかし炊いたご飯のふたを

取った時、ブーンと油のにおいがした。口に入れてみてもおかしい。私は買ったお米を全部、女中さんの犬へあげた。親しい二人の友人にこの事を話した。一人の友人は、

「日本でも、ぼくらはおいしいお米を食べていないので、日本米よりオーストラリア米の方がずっとおいしいと思っている。油のにおいなんか全然気がつかない。」

他の一人は、

「あなたに言われて、におったりかみしめたら、やっぱりおかしかったので、お店へ返しに行った。」

このこと。でも、他の人からは、こんな話は全蒸聞かなかった。オーストラリア米は、日本米と同じようにおいしい。しかし、保存、流通の仕方に疑問を持った。マレー米は、型が違うが現地風に炊き上げるとおいしい。

そこで私は、健康上のことを第一に考え、とりたての現地米を食べるのが一番いいと考え、農村地帯のケタ州の農家までお米を買いに行き、食べたことがある。

しかし、私がこれまでに食べるのに、ほとんど三年かかったように思う。

4 カリホルニア米

私は、マレーシアに三年滞在したが、もう任期が終ろうとするころ、商人が、「値段は少し高いがおいしいお米が入ったか

ら買わないか。」と言つてすすめてくれた米は、カリホルニア米であった。

以前、私は、アメリカのカリフォルニアに一月滞在したことがある。サンフランシスコ大学で寮生活を送ったが、その学校の食堂で、日本の小学校の給食代(一食分)と同じくらいの値段で、一食を食べることができた。いく種類もある飲み物は、飲み放題、デザートもいく種類の中から好きなものを選べる。主食も副食も好きなものが選べた。皿数も多く、三度の食事が楽しみであった。それでも人間は貧乏で、日本食堂を探して日本食を食べた。ご飯にすぎ焼き、親子どんぶり、何でもすくおいしかった。これが本場のカリホルニア米であった。聞くとところによると、カリホルニア米は、各地の日本人学校へ行かれた先生が、いろんなところで食べておられた。

5 マレーシアの農業

ペナン日本人学校の小学部二年生の児童を連れてマレーシアの農村(米作り)や農事試験場を見学したことがある。

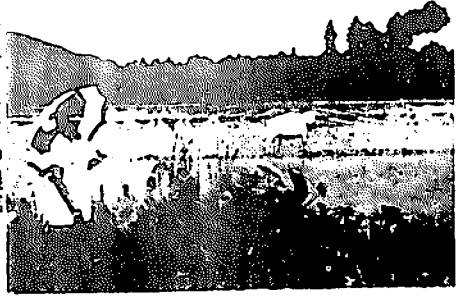
マレーシアの稲作は、水さえあれば(乾期に不足する所があるので)いつでも田植をすることができると、農村地帯を通ると「この田は、日本の六月ころの田植風景です。こちらの田は、実った稲の刈り取りで十一月ころの風景です……。」と、

日本の米作りの様子を一日で学習することができる。

また、農事試験場では、世界各地でとれたいく種類もの「もみ」を集めて、よりよい品種を求めて研究を続けておられた。もちろん、その中には、日本の「もみ」もあったし、「日本の「もみ」を植えて田植もしている。目下試験中だ。」とも言っておられた。

一方で暑い国のこと―虫やねずみ対策にも力を入れておられた。大、小たくさんのねずみ(小猫ほどもある大きなねずみ、小さい小さいねずみ)を飼い、いろいろと実験をしておられた。

三年間のマレーシア滞中で、食べることでできない日本米を二回だけ食べることができた。一回は、近くに住んでおられたペンギンテックスの社長さんから「少しだけと、一回食べてもらん。」と言って二合いただいた。もったいないので一合ずつ二回に分けて炊いた。あまり少なくて炊き方に問題があったのか味は、いつものオーストラリア米とあまり違わなかった。二回目には、帰国をひかえて、世話になった日本の私の家族を四人ペナンへ呼んだ。その時、没収されることを覚悟で、それぞれ一升ずつ日本米を持って来てもらった。三人は荷物の検査がなかったが、一人の荷物は調べられた。米を見て、「これは何か。」と問われたので、「これは、今晚の私の食事だ。」と言ったら何



マレーシアの農家

使って両親が栄養たっぷりのご馳走を作ってくれているのに……私にとって、「ふるよごの米」は最高である。

も言わなかったとのことである。
こうして、私達五人は、炊飯器いっぱいにご飯を入れて炊いて食べた。久しぶりに家族と共にした食事は、私が一生忘れることができないほどおいしい食事であった。

その後、帰国して、しばらくの間、私は、ご飯に白米のつけものだけで、「おいしい、おいしい。」と食事をしたことを、今ではなつかしく思い出す。気を

カラカスでのできごと

カラカス日本人学校（ベネズエラ）

岡山市立岡南小学校 赤坂 英二

カラカスは遠かった

海外に住んで、うれしい事の一つは日本からの便りをいただくことである。

日本からカラカスまで郵便物の届く日数は、大体十日～二週間である。クリスマス等の時期など特別に郵便物が多い時は、ふつうの二倍、つまり一か月の日数を要することもあった。

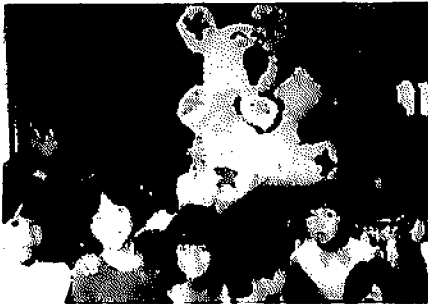
私がおもらった手紙の中で次のようなものがあった。十二月もおしせまった冬休み、（とは言っても気候は一年中ほとんど変化はないのであるが）一週の手紙を受け取ったのである。さっそく、はさみて切り、眺み始めたのであるが、その最初の言葉が、

「こちら日本ではやっと梅雨も終わり、よくやく夏らしくなってきました。」
であった。

私は、わざとおもしろく、また、じょうだんめいて書いたのかなど、とっさに思ったのである。なぜなら今は秋も過ぎ冬を迎えていたからである。しかし、「ちょっと待てよ」と思い、

もう一度、差出人を確認したのである。やはりまちがいはない。この人は、こんなじょうだんを書くような人ではない。それではなぜこんなに受け取った時期と書き出しの文がちがうんだらうか。それではと思ひ消印を見ると、七月十五日であった。何と半年近くかかって手に届いたのである。どこをどう渡り歩いて来たのであろうか。

ここベネズエラの郵便事情（郵便物の処理の不手際によって遅れることがあるという）はよく聞かされていたのだが……（の悪さを腹立たしく思ふより、何はともあれ無事届いたことにうれしさを感じたことを今でも忘れられない。



つり下げられたくまの人形は、「ピニャータ」と呼ばれ、誕生会に用いられる。ピニャータの中におもちゃやおかしを入れておき、子どもが順番に棒でたたき割る。そこから出てくるおもちゃやおかしをみんなで拾い合うという、誕生会のひとつの出しものである。

ネズミの目はごまかせなかつた

ベネズエラは食料品の持ちこみ禁止国である。つまり日本から食料品類をバッグに入れて持ちこんでいるのを見つかる、その場で即、没収されてしまうのである。

だから、同様に日本から日本食品やおかし等を送ってもらっても、見つければ没収されてしまう。

しかし、そうとはわかっている、また、日本食品(梅干・とうふ・油あげ・コンニャク・のり・けずりかつお・とろろ・めん類・つけ物など)は食べられないのを覚悟していたもの



水上生活者の集落。マラカイボ附近は1年中暑いところで、その暑さを防ぐための生活のちえ。学校も病院も店もすべて水上にあり、舟で行き来している。

やはり欲しくなる。

そこで考えたことは、子どもの雑誌のふろくの箱の中に、のり・とろろ・ふりかけ・けずりかつお等をしのばせ、それを雑誌ではさみ、そして十字にひもでくくるのである。包装紙で包んではいけない。包むと中に何か入っているのが検査官はわからないので包装紙を開けるようになる。そうなる、箱の中の食料品も見つけられることにもなりかねない。包装してはいなければ検査官は見つ

「ああ、外国の雑誌だな。」

と判断するであらう。そうすれば開かれることもないわけ、食料品は無事届くことになる。

この方法によって何とか少量ずつではあるが、確実に貴重な日本食品を手に入れることができたのである。

ところがである。航空便だと運賃が大変高くつく。なるべく皮々送ってもらうためには船便ということになる。船便となると二か月はみておかなければならない。船とこの日数が新しい敵を生み出したのである。はるばる太平洋を渡ってきた雑誌と食料品を大切に大切に開けてみると、そこには考えもつかなかったことが起こっていたのである。のり・ふりかけ・けずりかつお等の袋が破られているのである。いや、破られているのではなく、かじられているのである。つまり、新たな敵?とはネズミであった。いかに貴重品とは思え、ネズミの食べ残しを

食べるわけにもいかず、くやしい思いをしたものである。

つまり、検査官の目には見つからなかったが、ネズミの目はごまかせなかったのである。

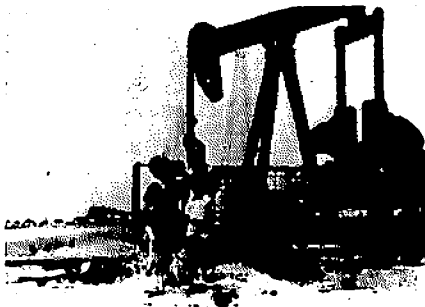
交通ラッシュを防ぐ方法を考えたが……

首都カラカスは、標高九百メートル／＼千メートルに位置し、東西約二十キロメートル、南北約五キロメートルの小さな盆地である。しかし、ここに人口約四百万人（この国の政府自体、実際の人口の把握はできていない。というのも、コロンビア等の隣国からの密入国者が多数いるからである）が住んでいる。それゆえ、日本の大都市と同じで、カラカスの悩みの一つに交通ラッシュがある。

カラカスには、鉄道（汽車・電車）の施設がなく、車が唯一の交通機関であることもいっそう激しいものになっている。

交通ラッシュが日本のように朝と夕の二回の他に昼食を家庭でゆっくりするという習慣がまだ残っている関係で昼にも見られ、一日に三回ある。そこで考え出された案が、プレートンバーの最後の数字（つまり一の位の数字）が「0」と「5」の車は、月曜日には乗ってはいけないという決まりが出されたのである。以下「1」と「6」は火曜日、「2」と「7」は水曜日、「3」と「8」は木曜日、「4」と「9」は金曜日には乗れないことになった。

これで、今までのようなラッシュは解消されるであろうと期



ベネズエラでいちばん名が知られている所。マラカイボ湖。マラカイボ湖の中には原油をくみ出すための井げたが林立している。手前に見える機械は、マラカイボ湖の町の中のいたるところに見られ、地下にたまっている原油をくみ上げるものである。

待されたのであるが、結果は失敗であった。つまり、もう一台買う余裕のある者は、もう一台購入することによって不便さを解消した。また、もう一台買う余裕のない者は、この決まりを守らなかつたのである。この決まりも考えよければ自動車会社を喜ばせただけのものではあつた。

このような決まりよりも、三台通れる幅のある道路に二台駐車し、実際に通れるのは一台分だけというような身近かな問題から解決する方が先ず大切だと思つた。

きっと、今もやはり交通まひで渋滞している車があつたことに見られることだろう。

カラチ日本人学校の思い出



カラチ日本人学校（パキスタン）
津山市立鶴山中学校 藤木 靖史

はじめに

昭和五十三年四月より、昭和五十六年三月まで、カラチ日本人学校に勤務しました。在外教育施設への派遣教員の応募要項を見て、すぐに応募し、高松で筆記と面接を受けました。二月初旬に内定通知があり、五日間の研修会に参加しました。そのとき、カラチは「開発途上国であって、暮らしにくい所である」と聞かされました。衛生面・治安面で不安な要素が多く、妻子を連れて行って果たしてやっていけるだろうか、生きて帰れるのだろうか、不安でいっぱいだったのが正直な気持ちでした。しかし、現地で生活している日本人、とりわけ、子どもたちががんばっているのだから、何とかなるだろうと思ひ直しました。出発までは大変忙しく、学年末なので、成績物の処理や、校内の片づけに加え、出発の荷造りをしなければなりません。妻は連日買物に出かけ、夜な夜な荷造りに精を出しました。アナカン（列送荷物）用と手回り小荷物用に分けるのにも、日数がかかりました。コレラと種痘の注射も間隔をあけて受けなくてはなりませんから、日程をつまぐ組まなければなりません

でした。

出発は、成田空港の予定でしたが、完成が遅び、羽田から旅立ちました。夜がなかなか来ないので、不思議に思いましたが、飛行機は西へ西へと太陽を追って飛んでいるのだとわかり、未知の国への不安と共に好奇心がいつそう強まりました。

回教の国ーパキスタン

パキスタンという国名は、まだ新しいけれども、歴史的には、四大文明の発祥地で、中学校の社会科学教科書にも、「モヘンジョダロ」や「ハラッパ」、「タキシラ」等の遺跡が載っています。また、「ガンダーラ」はこの国の北部の地名で、仏像



全校集会（校庭と校舎）

の発祥の地といわれています。

人口の九五％は回教徒で、その戒律は理解しにくく外国入にとっては全く奇習だと思ふこともあります。例えば、ラマザンという断食月があります。三十日間、太陽が出ている間

は、一切物を口にしてはいけません。

太陽が沈むと一齐に食事を始めます。こうして、汚れた体を清めるのだそうです。最終日が近づくと気分がいらいらするのでしょうか、交通事故が増えてきます。宗教的行事は、陰暦です。月が最終日に見えなかつたら、出るまで延期になることがあります。そのため、行事や休日が変更になることがあります。あまり気にかけていないようです。そして、一年に十一日ずつ繰り上がるため、カレンダーは毎年大改訂されます。次に、一夫多妻についてですが、同居を条件に妻を四人まで



わが家の庭で、キック：ベースボール

持てます。現実には、ほとんどありませんが、二人妻の語も耳にします。この習わしは、騎馬民族であるため、常に戦を行い男の数が少なくなるからだとされています。

また、女性は、肌を見せないことが英徳とされるため、ペールをまとったりしており、長袖の長い服とだぶついたズボンをはいた姿が標準服となっています。暑い国ではこの方が涼しいのです。やはり若い世代は、だんだん欧米化しています。

また、酒を飲むことを禁じられています。軍の統率がとれなかつたり、士気が失われるからだとのことです。回教の国です。現在もそれを守っています。外国人や他宗教の人にもかなり制限が加えられています。

自分より貪しい者には、施しをする習わしもあります。そうすれば、自分ももっと幸福になれるというのです。街角には、多くの物もらいがたむろし、信号待ちをしていると手を差し出してきます。

その他、一日五回、メッカに向かってお祈りをするなどの宗教上の諸行事があります。

現在、軍政下であり、シアウル・ハク大統領は、敬けんな信者ですから、回教の教えに忠実な国民になるような政策を強く打ち出しております。第三世界の中心となって発展を進めている国が、パキスタンです。

カラチというところ

カラチは、パキスタン回教共和国の最南端に在り、人口約六百万の商業都市です。一九四七年：パキスタン独立から、一九六五年：イスラマバード遷都にいたる十八年間、パキスタンの首都であつたため、各国の領事館があり、また、貿易港や国際空港もあり、政治・経済の中心地といつてよいところです。

綿花の積み出し港なので、早くから日本の各商社が出向いていました。

子どもたちを取りまく環境



日本の「まつり」を披露

カラチは、四月から十月まで、半年以上が暑い夏です。この長い夏を乗り切るには、相当の体力が必要です。一日中エアコンをかけたままにしてなければなりません。外に出ると、汗が吹き出し、また、部屋に舞い戻ります。そのため、毎年一二年は、身

長・体重の伸びが小さく、二三年たつと安定した伸びに戻ります。風邪・下痢などの病気になる子どもが多く、暑さや水、精神的なものから来るホルモンのアンバランス等が原因ではないだろうかと各種論議されています。とかく、健康管理の難しい土地がらす。

開発途上国の生活水準はやはり低く、日本人家庭は上流に近い存在となります。そして、労働力が豊富ですから、外国人は何人かの使用人を雇うよう義務づけられています。日本では、どうい住めないような広い家を借りて生活します。広い庭の芝生の手入れや、いくつも寝室のある家の管理、暑い台所の仕事は実際に大変なことなので、必然的に使用人を雇うようになるのです。日本のように家庭だけで生活することは無理なので、す。

しかも、使用人の給料は、べらぼうに安く、帰国前でも、いちはん高給取りとされているコックでさえ、月額三万円まででした。使用人として、コック、ベアラー(執事)、スイーパー(掃除夫)、マリー(庭師)、ドビー(洗濯夫)、ドライバー、チャキータル(門番)その他、幼児のいる家庭では「アヤ(子守り)を雇います。

このように、使用人を雇って生活をしている環境に日本人の子どもも違はいるのです。

「私たちは、日本と社会的、自然的に大きな違いのある社会

で生活しています。大人たちはその違いがあっても、影響は少ないでしょうが、子ども達は、海綿のように、この社会の生活様式や、人の生活ぶりを吸収して、自分のものにしていきます。二、三では、当然とされてる使用人に対する、サフ（主人）としての態度が心の奥底に残されていきます。子ども達は、何の抵抗もなく、使用人を使うことがあたりまえだとして、使用人を自分より一段下の人間として見ています。

身の回りの細々としたことは、ベアラ、その他の使用人になるべくさせて、自分は手を汚さないような生活が、当然だと考へるようになっていきます。

自分が汚した物を掃除することに、子どもの中には、情ない、思いをしている者すらあります。掃除が情ないと思っているのではなく、使用人として軽べつしている人のする仕事を自分がすることに、情なきを感じているのです。

帰国した子どもの評価の中に、東南アジアなどの、サーバントのいる国からの帰国児は、問題児となる者が多くて困るという声を聞きます。自分のしたことを後始末することに情なきを感じた子どもは、日本に帰った時、給食当番で、友達食べた食器の後片づけや、汚したテーブルをふくことに、情なきを感じるのではないのでしょうか。「いやだなあ」、「たいがだなあ」とは違つと思ひます。……。「(「学校だより」より)

また、スクールバスで子ども達を迎えに行った時の次の情景

は忘れられせん。

ドライバーが、家の前でクラクションを鳴らし、迎えに来た合図をした。チョキタールが門を開けた。やがて、子どもがバンをくわえてのそのそと歩いて出て来た。そして、その後を這つてベアラが鞆と水筒を持ってやって来て、バスのドアを開けた。子どもはバスに乗って鞆と水筒を受け取ると、だまって座席についた。ベアラは、バスのドアをしめると門の中に消えた。

商社の人達の生活は、日本以上に大変で、帰宅が遅く、しかも月の半分以上は出張していて、母子家庭とも言える状態です。

子ども達のために

【教育目標】

1 各教科の基礎学力の充実に努める。

2 道徳教育の推進を図る。

3 健康保持、体位の向上に努める。

4 国際理解の教育を行う。

【具体化のために】

○一人一人に密着した授業づくり

複式授業の短所を克服して、一人一人がわかる喜びを味わう授業づくりを進めていく。VTR・OHP・スライドなどを活用して、個人の能力を高めていく。

主に理科・社会科は当地にあったカリキュラムが作られつつあるが、再度検討していく必要がある。基礎学力のレベル

アップのために、教員の研修もまた欠かすことはできない。

ともすれば母さのために、乱れ気味になる学習のリズムを常に一定に保つための工夫もまた大切である。

○「与えられる」から「作り出す」へ

子ども達の生活の中で与えられるものは多く、創意工夫して作り出すことが少ない。自分の家を出て、独り歩きのできない子ども達が創意工夫できる場合は学校しかない。

パキスタンの素朴な材料も使えるだろうし、品質の悪さをどうカバーするか、大いに考えなければならぬ。また、自

分たちが作り出して
いった行事ほど満足
感は大きい。

○助け合い

励まし合う心

子ども達は非常に
仲がよい。その反面
我を押し通そうとする
面も非常に強い。
長い学校生活の中の
短期間のカラチでの
生活だが、友達を大
切にする心を養いた



い。

○たくましい体、がんばる心

暑さのためか、身長も体重も、成長がストップする時期がある。生活のリズムを狂わせないための生活様式の改善を考え、がんばる心を、学習のみならず、体育や遊びの中でも育て、体力づくりを計画的に行いたい。

○パキスタンを知らうとする心

パキスタンの子ども達との交流は、現在の時点では不可能に近い。サーバントとの関係でも、マイナス面はあっても、プラス面はあまりない。建国からの歴史は浅いけれども、イentas文明発祥の地である。古いものと新しいものが雑然とまざり合っている。パキスタンを肌で感じることによって、日本という国をもう一度見直すことができる。いつの日か、子ども達の交流の場ができることを願いながら、パキスタンという国を知ろうとする意欲を持つようにはしていかなければならない。

【いろいろな取り組み】

日パ協会、文化センター、総領事館等の主催で、三年に一度くらい開催される日本を紹介する「日本の夕べ」という催しがあった。学校の子とも達が、かなり重要な役割を果たした。いろいろな出し物を計画する中で、カラチで日本の祭を再現しようということになり、しし舞い、みこしを作るようになった。

しかし、すべてを現地調達でまかなわなければならない。小学部高学年と中学部にいろいろ考えさせ、ししは、ダンボールの箱で作り、緑の布に白ペンキで模様を書いた。ろこしは、バザールで買ってきた大きなこにこぎを巻きつけ、樽を作り、竹の棒に握えつけた。パキスタンの人たちが結婚の時に車を飾る花や、その他の紙製のアクセサリーを買って、にぎやかに飾りつけた。

この作業をしていく中で、カラチでは手に入らないと思っていた物をいろいろ発見でき、カラチを見直すチャンになった。

また、器楽合奏では、パキスタンの音楽を一曲練習し、音楽の中から、パキスタンを理解していく喜びも味わったりした。

その後、器楽合奏は、国際児童年の催しなどにも参加し、パキスタンの子どもたちとの交流もできた。

パキスタンの学校との交流は、実現できなかったが、アメリカンスクールとの交流は、体育的なもの、文化的なものともに年に数回行われた。

「掃いたりふいたりという掃除は、子どもにやらせておりません。スイーパーの仕事ですから。」

子ども達に掃除をさせようとした時、父母から返ってきた言葉だった。

前述のような環境の中でも、どんなことでも、してもらった時には、「ありがとう」と言える子どもに育てるための生活指

も進めた。スクールバスでは、乗降の際、ドライバーや友達に対するあいさつを添乗して指導した。赴任当時、子ども達が半気で「パキ人」というのを聞いて驚いたものだが、パキスタン人の物を大切にする努力や、廃品を手づくり見事に再生して日常生活に利用する様子を観察させ、作文に書かせたり、弁論大会を開いて発表させた。その中で、パキスタンに対する理解を深めていき、自分達の生活をふり返って、物を粗末にしていることに気づいていった。

また、パキスタンの歴史、社会生活、パキスタン人のくらし、



15周年記念行事

カラチのくらしなどの副読本を作り、社会科学や学級指導の中で利用していった。

開発途上国に対する考えを変えていくことは、たやすいことではない。小さな実践の積み上げが必要であり、その中で発見してくれると信じて進めて行った。

おわりに

三年間は、ほんとうに貴重な体験をさせてもらったと思う。どんな事があったても、何とかやっていけるという気持ちになった。教職員と子ども達の力で、創立十五周年の式典も無事に終えた。いちばんの思い出は、校章ができ、神津豊行先生の作曲による校歌ができたことであった。これにより、カラチ日本人学校は、いっそう発展していくことだろうと思う。

カラチ日本人学校で生活した小さな外交官が、真の国際人に成長してくれることを願ってやまない。



子供達・パキスタン人に見送られて離バ(カラチ空港)

カラチ日本人学校

校歌

東にインダスの

ときわの流れあり

西にはパルチスタンの

際なき砂漠あり

我等の学舎は

我等の学舎は

年を経て 栄えきぬ

2

北には ヒマラヤの

雷の峰 そびえて

南は アラビアの 海の波 あらいて

我等の 学舎は 我等の学舎は

常夏の風 薫る

3

カラチの 広き野に 砂あらし 吹くとも

家路も 庭のへも 恵みを持つときも

我等の 学舎は 我等の学舎は

すがしかれ いつまでも

「我長彰化県人」（彰化県の出身です）

という会話がよく行われているように、人々の地縁や血縁による結びつきは強く、内部の団結力は抜群であった。しかし、このような結びつきは、外に向っては排他的となりやすく、開拓の当初から広東系移民と福建系移民の対立は激しく、敗れた広東系移民は、新竹方面へ逃れて住みつづけることになった。（現在もこの地域は広東系移民の根拠地である。）

一方、同じ福建省出身者でも、泉州系と漳州系は仲が悪く、しばしば武闘に発展した。交通の要衝であった新莊は、これら武闘の中心となった。嘉慶年間、林平侯が大溪へ居を移したのも、実はこの戦乱を避けてのことであった。

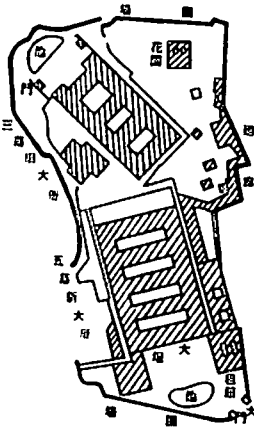
林平侯の子、林國芳は武人として高名で、咸豐三年（一八五三年）以後、数千人の兵を率いて台北平野の各地を転戦し、しばしば泉州系を破り、漳州系移民の心の支えになったといわれる。余談になるが、日本人観光客が台北で必ず訪れる龍山寺（泉州系移民の信仰を集める寺院）は、この戦乱の中を数日にわたって燃え尽けたといわれている。

もう一人の子、林國華は、父平侯の商才を受け継ぎ、殖産興業に努め、十九世紀の半ばには、小作料だけでも十数万石（林街道「紳士と民族」）であり、日本の大名クラスの収入があったという。また、台湾の農村経済を動かしていた「土墾間」（

倉庫業や金融業も兼ねた旧式の板摺工場）は林國華の創設といわれている。（前掲書）

このような動きの中を、道光二十七年（一八四六年）林國華林國芳の兄弟は、大溪から漳州系移民の多い枋橋（現台北真板橋市）に移り、林本源の大師宅の建設に取りかかった。

「三落旧大厝」と呼ばれる三棟の大師宅と回廊など付属建築物が完成したのは、咸豐三年（一八五三年）。さらに、「五落新大厝」といわれる五棟の大師宅と付属建築物は光緒十四年（一八八八年）の完成で、國華の子、林維讓、林維源の時代になっていたのである。続いて、光緒十九年（一八九三年）邸宅に隣接した林家花園が建設され、五十年近い年月をかけ、福建省から運んだ赤れんが、石材、木材を、同じく福建省から招かれた技術者が組み立てたという大事業も、遂に完成したのである。



林本源邸「台湾勝蹟探訪冊」省文獻委員會編

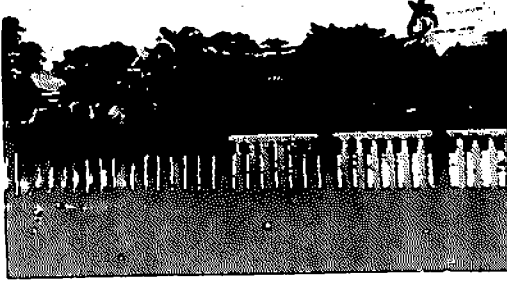
林國華の屋号「本記」と、林國芳

の屋号「源記」を合わせて「林本源邸」と呼ばれたが、枋橋の街の半分を占めるといふ壮大な邸宅であった。

文化人の擁護と近代化へのかかわり

— 林維護と林維源 —

こうして林本源は、国華・国芳の代に台湾における勢力を確立することになった。林国芳に子がいなかったため、林国華の二人の子、維源が国芳を、維護が国華をそれぞれ継ぐことになった。



林本源邸

維護・維源の代には、小作料だけでも年に三十万石（前掲書）を越え、岡山藩主池田氏並みの収入をあげ、林本源家の黄金時代を迎えることになった。

滑の同治十二年（一八七三年）板橋に大観興学（現在も林家住宅に隣接して残っている）を創設し

てからは、経済力を頼り、大陸からも多くの文人が訪れるようになった。清朝の末期、會道で知られた呂西村や南画の謝稚樞らは、林家花園の設計にも参与し、学芸都市枋橋の中心として活躍した。

一方で、林本源は平侯の代より清朝や社会への寄付を惜しまず、特は林維源は、それらの功績により光緒十二年（一八八六年）以後は、台湾撫臺大臣劉銘伝の補佐役にまでのぼり、基隆—新竹間の台湾初の鉄道建設や税制改革など、台湾の近代化に活躍したのだった。

光緒二十一年（一八九五年）日清戦争後の下関条約によって台湾は日本の領有するところとなった。林維源は福建省廈門に逃れ、度重なる日本の誘いにも応じず一生を廈門で送ったという。植民地政策を進める日本に対し、一貫して服従を拒否した愛国者として、台湾の人々に慕われたということである。

現在の林本源邸

台北日本人学校時代、台湾の史跡ガイドを手にとり台湾各地に残る史跡を訪ねるのが、私の大きな楽しみであった。台湾の史跡見学の楽しさは、由緒ある史跡との出会い以上に、暖かく人なつこい台湾の多くの人々と出会えることにあった。麻豆鎮の林家を訪ねたおりこ近所の方々と知りあい昼食をこちそうになり、そのあと麻豆の古い民家五、六軒を案内していただき、最後に

台南まで送っていたことは忘れられない思い出である。

その中で最も印象的だったのが、淡江学院（現淡江大学）教授で、省文献委員会の主任委員をしておられた林銜道先生であった。台湾の歴史・民俗の第一人者であり、積極的に野外へ出て行かれ、台湾で出版されている史跡ガイドは、ほとんどすべて先生の研究を下敷きにしているというくらい有名な先生であった。

あれはいつだったろう。日本人学校の台湾郷土史部の生徒が林本源邸を訪ねたとき、たまたま學生を率いて史跡調査をされていた林先生と出会ったことがあった。先生は學生らに指示された後、日本人学校の生徒を連れて林本源邸を案内して下さり、板橋の史跡の説明もくわしくしてくださいました。大きなお腹からすり落ちるズボンをたくし上げながら、情熱こめて台湾の歴史や民俗を語っておられた林先生の姿を、今でも鮮明に思い出すことができる。

私が台湾にいたころの林本源邸は、「三落旧大厝」こそ現在も一族の方が居住され整理もきちんとされていたが、「五落新大厝」は、たくさん外部の人が住みつき、林家花園にいたっては、倒壊し足のふみ場もないぐらいに荒れ果てて、廃墟と化していた。

昭和五十四年ころ台北県議会で林家花園を市民の憩いの場に

整備するという法案が審議されていた。現在、林本源邸は、どうなっているのだろうか。

毎年、夏休みになると、「国際理解」の原稿のために、台湾を思い出すようになった。懐しい林銜道先生の著作や当時のノートを読み返し、しばし、台湾にいたころの思い出にひたるようになった。

最後に、まとめるにあたって、たくさん引用させていただいた林先生に感謝しつつ、ペンを置かしていただき、こう思う。

参 考 文 献

「台湾勝蹟探訪冊一二三集」・「台湾通史」（文献委員会）・
「郷土と民族」・「台湾史跡名勝之導遊」（林銜道）など

地方の国際化と

帰国教師の役割

デユッセルドルフ日本人学校(西ドイツ)
岡山市立岡北中学校 三宅 正勝

従来、国際交流とか国際社会という言葉には、都会的で華やかな印象がつきまどっていた。実際「国際」と銘打つてのプログラムには、大都市中心のものが多かった。しかし、一九八〇年代に入ってから、地方における国際化・国際交流が活発になってきている。

岡山県は果物のほかに、豆蔻の生産地として有名である。ところがその原材料であるイ草が「ワグ国ニモ沢山ハエテイルヨ」という情報もたらされた。この情報提供者は、なんとケニアからの留学生。これを契機に、二か国間に貿易振興と技術提携の話が進展する。

また、ダイエット食品として、切り干し大根や、トコロテンを大産に輸出している異色の会社F社が、県下にある。

一方、抗ガン剤の一種インターフェロンの開発により、一躍世界の耳目を築め海外からの視察が引きも切らぬ、H研究所が異彩を放っている。しかし、岡山という地方都市と世界とのか

かわりは、いわば商業ベースに終始している訳ではない。心の交流も盛んなのである。

N女子大学では毎年、学生ボランティアをマレーシアの病院に派遣しており、障害児教育面で声名の高いA学園では、アセアン諸国や中南米からの留学生が研修に励んでいる。さらにユニークな国際プロジェクトが最近挙行され話題を呼んだ。ギリシャのM市と姉妹縁組をしている瀬戸内海のU町で「国際芸術祭」が開催されたのである。それは地方においては日本で初めての快挙であったという。

このような状況に基づいて、市町村の文化センターや公民館では「国際理解講座」を開設し、「世界の中の日本、そして岡山」を考える機会が増えている。

このような、急速に進展する地方の国際化に対処するために、県は、一九八四年「国際交流プラザ」を新設。こうして経済・文化・教育面において、国際活動を助成する気運が高まっている。この「プラザ」が、ボランティア通訳を募集したところ。英・独・仏・西・中国語等百五十名を越す人材が登録された。これは一地方都市の現象としては驚きであった。

さて、こうした国際化の波の中にあつて、私達地方における帰国教師はいかに対処しているかを記してみよう。

私自身は、岡山県の派遣教員第一号として、西ドイツで勤務

させていたのだが、帰国後の教師の状況は、海外経験を自己の領域に閉じ込めている者が多かった。貴重で貴重な体験が普遍化されることもなく、埋没されそうな状態であったのである。

そこで県教委と有志の協力を得て「教師の会」を結成し「海外経験を生かす試み」を模索した。帰国子女および出国子女や派遣教員の世話はもとより、関係機関に「人材バンク」として登録、各種の国際関係の集いに、帰国教師を派遣している。

また、会員は国際理解教育を進めるための学習を、参観日に行つたなど、地域と世界との結びつきについて親子が共に考えられるよう工夫した。

会員の中には、海外で習得した言語に磨きをかけるため、語学講座に精を出す者も多く、ボランティア通訳やホームステイを積極的に引き受ける者もいる。

さらに一九八三年、会の結成二年目に至って、研究論文やエッセイを中心とした機関誌「国際理解」を発行、県内外をはじめ海外にも配布するなど好評を得ている。

現在、帰国子女の八割は大都市に集中しており、それらの地域では「フランス」・「かけはし」など、帰国子女の親の会が発足して活動を開始しているが、岡山でも数こそ少ないが、先ごろ「帰国子女の会・ももたろう」が産声をあげている。これも地方都市では珍しいとのことであるが、今後各地で同様の会が誕生することであろう。

私達は、この「ももたろう」と協調を深めながら国際理解のための活動に着手したところである。私は、以上述べてきたようなことは、海外経験をさせていただいた教師の一人一人が自覚して、帰国後に当然なすべき任務であると考えている。

今日においては、子女を同伴した外国人が、日本の、それも岡山のような地方都市に居住するケースが増えていることにも目を向けなくてはならない。そこで私達は従来の「海外子女教育・帰国子女教育」を、中国からの帰国子女やベトナム難民の子供達をも含めた、グローバルな視野で考えてみたいものである。

私は、国際理解教育というものは、今後日本の教育界で最も重要な位置を占める課題であると信じている。なぜなら、教育の最終の目標は、一言にしてまとめるならば、何人とても温かいコミュニケーションが出来て、お互いが、よい人間関係を保つことにほかならないと思うからである。

(全国海外子女教育研究協議会「会報・第十九号」の巻頭言)

バッハの生家

デュッセルドルフ日本人学校(西ドイツ)
岡山市立高島中学校 三宅 詠子

「小フーガ ト短調」、バイプオルガンで演奏されるこの曲は、多くの人にとっても愛好されている名曲ですね。

さて、この曲の作曲者バッハは、どんな所で生まれたのでしょうか。ここに彼の生家を訪ねて行った時の私の体験記があり、まずので読んでみてください。

第二次世界大戦後東西ドイツに二分されたその東側であるアイゼンナッハにバッハの家は博物館として保存されています。



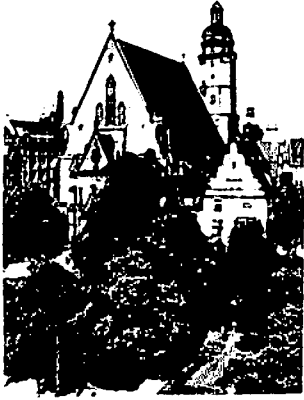
今年生誕300年を迎えたバッハ

地図を頼りに迷いながら授け歩き、やっと少し小高い所にたつている。写真で見覚えのあるバッハの生家を見

上げながら、車を止めた時には時間切れで、入口の戸は堅く閉ざされていました。東独に72時間滞在許可のビザをやっと取って入国した我々は、出国の時間が迫っていて、中を見ることはあきらめねばならないと、残念さをかみしめていました。これが自由主義の国なら近くのホテルに泊って明日ゆっくり見るとも出来るのですが、この共産圏ではそんなことは許されずに決まっています。それどころか決められた時間を少々オーバーした時にはどんな事態になるのかという不安が入国時の面倒さから推察しても大きいのしかかって来るのです。

何しろ国境ではマシンガンを持った兵士が、こわい顔をして何人も立っておりまして、トランクの中、車の中も、後部座席を取りはずして下をさぐります。おかげで先日なくした5マルクのコインが見つかったりして身んだのはいいのですが、その後ずっと座席がどうもつまづ元の上にならないで困りました。ガソリントランクも鍵を明けさせ、細い火かき棒のような針金をつっ込んで何か隠してないかとさぐります。車の下は、斜めになった車つきの大きな鏡をさし込んでたんねんに見るといった手順の他に、書類上の手続きもいろいろと面倒で一台の車の国境通過にうんざりするほどの時間がかかってしまったのですから。

そんなわけて、せめて写真でも撮ってからここを去ろうと、カメラをかまそようとした時思いがけないことに扉が中からあ



アイゼナッハのバッハ博物館

いて、中から人が二・三人出てくるではありませんか。どうやら図書館きわに入った見学者らしく、番人に見送られて「アウフ・ビーターゼン（さようなら）」とロク々に満足をうな殺情です。このチャンス逃がしてはならじと、写真はそちのけで入口に走りました。

番人は年若い青年です。

「ちょっとでいいから中を見せてください。」

「アイン ビッセン ビッテ。」「ビッテ ビッテ。」

ロク々に家族四人が哀願します。

「ピア、ハーベ、カイネ、ツアイト。」（私達もう時間がないんです）

「日本はあまりに遅く、ここへはもう二度と来ることには出来ないんです。」と知っているドイツ語のありたけを並べ

ると、いつの間にか後ろに上品な中年の婦人が静かに立っていました。青年はちょっとその人と相談しているようでしたが間もなく「ビッテ（どうぞ）……」とさつき消した灯りを再びつけて二階へと案内してくれたのでした。

それはヨーロッパの田舎によく見られるとっしりした大きな木造建築の家でした。屋根裏部屋を入れて三階建てだと思つたのですが、バッハの伝記に出てくる、例の有名な話、お兄さんの大切にしている楽譜をこっそり持ち出し、月明りで写譜をしたというのはもしかしてこの部屋では…… と思ひながら見た寝室の大きなベッドの横に子供用のゆりかごのような小さなベッドが置かれているのが可愛らしく印象に残っています。

そこで私は案内してくれているさつきの青年から意外なことを聞きました。それはこの家がバッハの生家ではないということでした。

私の記憶ではこの家を正面から写した写真が「バッハの生家」として紹介されていたと思つたのですが、バッハの生まれた家は既になくなっているのだそうです。

私のドイツ語があやしいので、聞き間違ひではないかと何度も念を押しましたが、

「二ヒト、ゲフルツハウス（生家ではない）、バッハが子供の頃住んでいた家です。」

とドイツ人特有のねばり強さでくり返し教えてくれるのでした。

一階は小ホールのような感じで、二・三十脚もあったでしようか椅子が並べてあり、レコードのコンサートが開かれたりするのではないかと思われました。

絵はがきの他にレコードも売られていましたから、昼間こについていたらきっとパッハの音楽が流れていた事でしょう。

時間外に特別に入れてもらった我々は、急ぐ気持ちも強く何も買わないで、

「アウフ ビーターゼンへさようなら。」

「ダンケ シェーンへありがどう。」

と外へ出ました。

外はどつぶり日が暮れてもう真暗です。今晚中に国境を越えて西ドイツに入らなくてはと夕食も取らず車を走らせました。

たとえ食事を取ったとしてもあの大パッハの住んでいた家に私も入ることができたという興奮でとてもものを通らなかつたことでしょう。真暗な道、本当に東ドイツの夜の街は街灯が少なくて暗い感じですが、特に田舎ではその暗さがまた格別でした。その暗い中へヘッドライトに照らされて白く光る道をまっしぐらに車を飛ばすのですが、なかなか国境に着かないのです。主人が車を止めて「ひょっとしたら道を間違えたのかもしれない。」と言ひ出した時には、みんな胸がドキドキしました。「どうなるのかしら」と、とても不安でした。

うす暗い車内灯の下に地図を近づけて見ていると真暗な中から

銃を手に構えた兵士が二人カッカカッカと大きな足音をたてて近づいて来ました。こんなに夜遅く、こんな人里離れた所にさえちゃんど見張りの人がいたのかと、また胸が高鳴ります。一般人が入ってはいけない所に迷ひ込んでいるのかもしれない、叱られるかしら、ひっぱって行かれるかしらと、その時の恐しさはもつ大へんなものでした。

でもそれは取り越し苦労だったのです。どうしたのかと尋ねられ、国境への道がわからなくなったのだと答えると、ここでUターンしてもう少し走れば間もなく本道に出ると教えてくれました。「なあんだやっぱりの道でよかつたんじゃないの。」子供達が父親をせめることしきりでした。無事国境を通過して西ドイツに入った時は本当にはっとして、一度に空腹を覚えて最初に見つかったドライブインのレストランにちゅうちよすることなく飛び込んだのでした。

(私はしばしば、ヨーロッパの音楽家の足跡を訪ねましたが、帰国後折に拙れ音楽の授業で小文を生徒に手渡しては、エピソードなどを披露することにしています。)

藤本さんの警句

リマ日本人学校（ペルー）
マドリッド日本人学校（スペイン）

倉敷市立茶屋町小学校 南井滋野

昔といましても、約十年前のことです。また財団も、全海研も今のように大世帯ではない頃です。それどころか、全海研は全くの手弁当組がやっと第一回の全国大会開催にこぎつけたばかりでした。

忘れもありません、その第一回大会で来賓挨拶に立った東京都の教育委員が、

「先生方は、いなかから来ている人が多いようだ。ひとつ『はとバス』にでも乗って東京見物をして帰れ。」
と言ったことを。

また、「海外女子教育」なんていう言葉さえあやふやな取りよきをされて

「なぜ、男子を教えないんだ。」
と、とんちんかんな質問さえ受けていましたから、無理もないでしょう。

そんな頃でも、財団をおたずねすると、もつ今と全く同じ海外女子教育論を聞くことができました。理事の藤本さんは、井

面の赤いピンが押してある世界地図を指さしながら、

「今年は、ここにここに開校の予定です。」

と、うれしそうに話されたものです。ピンの数は、また五十年前後でしてはどうでしょうか。

そして、二回目の帰国——昨年の春フかがいきましたら、ピンの数は七十数本にふえていました。イベリア半島のまん中に、ボツンと押されたピンを見ながら、過ぎ去った三年間をかみしめました。

今も昔も、帰国教師仲間では、気安く財団の藤本さん、水野さんとお呼びしておりますが、お二人は海外校発展のためのささなのです。はとバス見学推薦者風の見下した態度ではない、暖かく優しいお二人の警句を聞くのが楽しみで、全海研に出る人も多いと聞きました。

昨年冬、藤本さんの卧報に接した時、目の前に、長身、銀髪の氏が語りかけるではありませんか。あれは、いつの大会だったか、あの日と同じ調子で、

「派遣教員は、地方へ埋もれてはいけない。外国への一つのどび石となって存在してほしい。そのためには、あなた方は、日本語を介さないで、派遣国を理解しなければなりません。その国の国語を通して、自らその国を学んで帰って来てほしい。」

三年間もいれば、何とか日常生活語は口をついて出る。日



マドリッド日本人学校

1983年3月・1年生

本人を教
えている
んだ。こ
の程度で
よいと
安心して
はいけな
い。海外
にいる日

本の子とも違に、教師も苦勞して学ぶ姿勢を示しなさいと言わ
れるのです。

「現地語を習得して、その国(人)を知れ。」

という藤本さんの警句を心にしりて感じたのは、マドリッドで
の三年目の夏でした。

同僚は、ほとんど外国へ出払ったというのに、ひとり四十数
度にもなるスペインに残っていました。「外国人のための夏期
講座」をマドリッド大学で受けるためです。

スペイン語文法・ディスカッション・スペイン文学作品解説
で三時間たっぷり汗をかき、その後二時間は、スペインの地理・
芸術・哲学の講座が続きます。最初、テストによって語学力(ス
ペイン語力)を三段階に分けたとはいえ、文法以外のレッス
ンは、上級も下級ありません。受講生はほとんど世界中から

集まっていました。年令も職業も全く様々です。私のクラスも
オリンピック競技会のようなだと誰かがさげんだくらいでした。
第一日目、自己紹介はまだ互に母国語まじりのスペイン語で
したが、おしゃべりは、日ごとにここでの共通語→マドリッド
風スペイン語になっていきました。

お互に、スペイン語を学ぶ以上に興味を示したのは、相手(国)を知ることでした。ことばを学ぶとは、こんなに迫力ある
姿勢を持たねばならぬことかとわかりました。ロマネ、暗記の
静的学習を強いる日本の語学学習が、実践に役立たないことも
よくわかりました。

この講座も、文法の講座でさえ、全く活発な討論がくり広げ
られていきます。それを、ユーモアをまじえてさばいていき、
ることに切りこんでくる教授からは、学ぶ側にまわったからこ
そ教えられた事があります。ディスカッションはいつの間にか
「人が共に生きることを考える時間となりました。そのきっ
かけは、十六才のイランの女の子がかりました。

「私は今、国がありません。今、住めるのはこのスペインだけ。
でも、あしたはどうなるかわかりません。今日のためにスペイ
ン語を学びます。」

たどたどしいスペイン語で話し始めた時は、二十五人の息使い
が一つになったかのよすがな静かさでした。まだ愛くるしい顔つ
まの子から出る「ホメイニは鬼」という激しい言葉と、反対派

はすべて敵扱いにする聞くにたえない残虐行為の数々、彼女が椅子に座ると、みんな「ほうっ」とため息をつきました。

ワシントンから来た大金持ちの弁護士おぼちゃん、自分の扱った事件から話しました。繁栄の故に、軽んじられる子どもの心、それに気づかない大人が少年を死に追いやった話です。彼女は、日本へも五回ほど行ったし、世界旅行にもあったので、

「今年はこの場所へ来てみたのよ。」

繁栄と貧困は、毎回とり上げられました。その時、この弁護士おぼちゃんと、カナダの難民収容所に勤めるケースワーカー嬢がよい先生となって、クラスを引っぱっていきました。

このケースワーカー嬢は、十年勤めたので一年の休暇があり、それをスペイン語学習に一月月当て、三か月はフランスで社会学を学び、……と、すべて、ふえ続けているアジア系難民受け入れのための準備に当てていました。

「体力があれば、この二年はアフリカでボランティア活動していただければと……。」

と、残念そうでした。

私は、八月六日、指名される前に立ちました。みんな、この日は何の日か、なぜハボネサ（日本人）が話したがっているのか知っているようでした。話し終ると、まずフランス人

夫婦が、立ち上って拍手を始めました。彼らは新婚旅行三週間を、まるまるこのスペイン語の夏期講座に当てているようです。持ち時間をオーバーしているのに質問は続きます。いつも陽気で必ずかけあい浸りになるドイツの軍楽隊員と、メキシコ青年が、この日はだまって真剣な顔つきをしていたのが思い出されます。それにしても、この時はど強く人間としての連帯感を持ったことはありません。

どの派、どの主義にも属さない、人間としてわかり合うことができる手段、共通語を持つこと（スペイン語）の偉力とありがたさに、あつい思いを残して、八月中旬、また、それぞれ世界に散らばって行きました。

旅行もしなければ遊びもしない、全く野暮なスペインの夏休みでした。しかし、今、世界のあちらこちらに点として存在する私のクラスメートは宝です。

みなさん、こんな宝石をふやしませんか！

パパガイオ（おうむ）はだれ？

— 全伯児童お話発表会のようす —

サンパウロ日本人学校

岡山市立福田中学校 岡本淑明

一九八〇年七月一三日、サンパウロ市のブラジル日本文化協会のホールは、千人近い人々の熱気でいっぱいである。ブラジルの日本語学校の児童たちの「お話発表会」も今年で十五回目、私もこの会の審査員としてこの会場に来るのが三度目である。

初めてのとき、先輩の審査員の方から聞いた言葉が、「パパガイオに気をつける」である。「パパガイオ」とは、ポルトガル語で、鳥の「おうむ」という意味である。つまり、日本語の意味もわからず、ただ教わったままをしゃべる人を言う。お話の発表の審査をするとき、ただこの二、三分の発表だけでなく、その人の日本語の能力をも見分けなければならないというのだ。発表は今、C組のタニツ・チエさん（十一才）の「おばあちゃんがいるいなか」である。彼女のおばあさんの住む故郷は、日本ではなく、サンパウロ市の郊外である。

「私は、おばあちゃんがいるいなかが大すきです。」
という彼女は、三世か四世であろう。奴隷制度の廃止により、そのコーヒー農園の仕事を引き継いだ日系移民たちであったが、

その子孫たちは、やはり都市に集中しているのかと、しばしの感慨にふける。しかし、これも得点集めるひとつによって現実に取り戻された。

— 日系新聞（サンパウロ新聞）社説より —

伯国日本語学校連合会主催の全伯児童お話発表会が行われた。参加者は、当初百二十名を予定し、それで打ち切るつもりだったが、遠い地から、特に南北パラナー、パウリスタ各地区からの申し込みがあり、最終的には百四十四人という盛り上がりになった。このお話発表会も今年で十五回目、大きな進歩の跡が見られ、主催者の日学連、教師の努力、それに父兄の協力のほどがうかがわれる。大会の内容を見ても昨年と比べるとうまくなったといえる。なかには意味がわからずに話しているようなものも見受けられたが、全般的に、すなおなクセのない話し方がふえている。これを大別すると、①ムリのない日本語、②クセのない日本語、③きれいな日本語（これは三分の一以上を占めていた）ということになる。それにもう一つつけ加えると、各地区とも格差がなくなったということである。

新しい移住者が盛んであったころには、その子女たちの話す日本仕込みの日本語との差は大きかったが、移住者が激減した現在では、そうした面はみられなくなった。と同時に、コロナ（日系移民社会）における日本語学校に通う児童が三世層が

主流となっていることも格差が縮まった一つの原因だともいえるようだ。

日本語教育の主流は、何といってもブラジル各地に散在している約二百数十校の日本語学校に通っている日系二、三世あるいは四世の約一万人（推定一萬三千人）を越える児童が中心となっている。その就学児童の八〇%が三世で、残り二〇%が二世、四世、それ以外のブラジル人ということになる。これをみてもわかるように日本語を勉強している主役は三世層といえる。

こんどのお話発表会の参加者の年令をみて、六ノ七才が十一人、八ノ九才が二十二人、十ノ十一才が四十人、十二ノ十三才が三十五人、十四ノ十五才が十六人、十六才以上が六人と、八才から十三才までが半数以上を占めていることでも判るといふもの。このように一つの年代層、特に八ノ十三才の厚みが大きくなっていることも、お話発表会で各地区の格差がなくなっている一つの理由にもなるといえるようだ。（一九八〇年七月一五日）

では、ここに入选した発表（C組10ノ11才）を紹介してみよう。

ピクニック

サント・アンドレABC日語校 片山 根利

三月三十一日に日本語学校のピクニックで、ピッコ・デ・ジ

ャラグアへ登りました。

朝八時におとうさんがサント・アンドレの駅まで自動車で行って行ってくださいました。駅には、もう、先生や大ぜいの友だちが、みんなにここに顔で待っていました。

電車がついて、わたしたちは前から二ばん目の車に乗りました。

一時間くらいで、ジャラグアの駅について、駅から少し行くと、カミニョネッテ（小型トラック）が待っていましたので、にもつをそれについで歩きました。

山のおもとのバルキ（公園）から坂道で、林の中のきれいないずみの水をのみ、せみのなき声を聞きながら歩きました。上の方は草ばかりで、とても急な道です。何回もすべりながら山の上へ出ました。山の上には、もうカミニョネッテが先に来て待っていました。

にもつをおろして、森の中でおいしいおべんどうを食べました。おべんどうのあとで、テレビどうのあるらょう上へ登りました。

とおくに見えるサンパウロの町には、高いたて物がたくさんならんでいて、その先の方はくもってよく見えませんでした。すく下には、わたしたちが歩いてきた道が見えます。パンデイルランテスの道路を走る自動車は、おもしろいです。

となりのテレビどうのある山にも登りました。こちらは、上

がせまくて、下はすぐがけて二わいようでした。

二時に山を下りました。登る時には気がつきませんでしたけど、ちょうど上近くの草原の中に、白い百合の花がたくさん咲いていました。山の中で、だれも手入れをしてやらないのに、草にも負けないで、花をつけているのにはびっくりしました。帰りはどこでも来て、走るようにして山を下りました。

道はわかっていたので、バルキで止まらなくて、駅に行ったら、お友だちはだれも来ていませんでした。

みんなが来てからホームに入りました。電車の中はゆっくりすわって帰りました。

電車に乗ったり、山の中を歩いたりして、ほんどうに楽しいビックニックでした。(一九七九年発表より)

ブラジルの日本語学校に在学する生徒による「お話発表会」は、伯国日語学校連合会の主催で、毎年七月に行われている。一九八〇年で、十五回をむかえたわけだが、私は十三回、十四回、十五回と三年続けて審査員を務めた。なかでも、一九七八年の「移民七十周年記念大会」には、全ブラジルの日本語学校選出の一七七人の出演者が、朝九時より夕方七時ころまで、熱演をくり広げた。

話題は、お話的な、「マッチ売りの少女」、「さるかにかっせん」などの童話、「リンカーン伝」、「福沢諭吉」などの伝

記、「はくのねえさん」、「お母さんの病氣」などの生活から「日系人の誇り」、「移民祭の意義」など主張を述べたものなどさまざまである。

彼等の話す日本語は、子音の「シ」が無声化して強く、イントネーションも少し日本人はなれた点もあるが、いわゆる外国人の日本語よりは、ずっと日本人の日本語に近いものである。私は、今回も「ババガイオ」を一羽も見つけることができなかった。それらしく歌うように節をつけて話している人が何人かはいたが、それより、気を使ったのは、話の内容についてである。その話が本やテキストにあるものなのか、それとも自作のものなのか、はっきり区別がつけられないものが多い。自作の話には、少しでも良い得点をつけたいと思っただからである。これについては、主催者側の要望もあったせいか、年々、自作の話をする人がふえているということである。

地球のちょうど反対側、日本からいちばん遠い国—ブラジルで、日本語教育はわずかながらも着々と進められ、日本語学習経験者は、年々増加している。これは、日本の無形海外資産とも考えられよう。私たちは、この財産を大切に育てていかねばならないと思う。

海外こそ

異質文化を持つ人間との

接触体験の場

シカゴ日本人学校全日校(USA)

岡山市立福浜小学校 鈴井 清

学校を去るこの春、道徳授業のため、「家の方に聞いてして
もよいから、日本人も取り入れたらと思うアメリカ人のよい点
を五つ書きなさい。」という課題を宿題とした。その中より、め
ばしいのを十点ほど挙げよう。愛想よくあいさつをし、気軽に
話しかけ、すぐ友だちになる。ユーモアがあり、いつもにこに
こしている。困っている人には、親切に教えてあげたり助けた
りする。主婦や退職者がボランティア活動をよくする。上手・
おいしい・きれい・かわいいと、ほめ上手。迷惑をかけられる
ことも、かけることもさらうので、予約をとっての訪問、大勢
の場では子を泣かせたり、さわがせたりさせない。家の内だけ
でなく、外回りも毎週きれいにする。女性や家庭へのサービス
を大切にするので、父は草野球の付きそい、買い物はゴーカー
ト押しも苦にしない。折々のカードを上手に使い、プレゼント
も工夫して包む。はずかしがらず自分の考えを堂々と、「イエ
ス」、「ノー」をはっきりという。

風俗習慣、宗教の異なる雑多人種の寄り合い所帯が、あの移
民の国、あの新世界で生き抜く生活の知恵としての行動様式な
り価値観をばくんできたものと思う。先述の授業末に、「日
本人との違いを知っただけではため、日本人らしい感じ方、知
技、立居振舞をどんどん身に付け、その上に、現地アメリカ人
の考え方や行いで、いいなあと思える点があったら身につける
つもりで、日々試して欲しい。」と教えずに言った。

帰国前の、在シカゴ総領事公邸パーティで、国際人・国際感
覚を語題にしたところ、欧州経歴もある氏曰く「そんな言葉や
考え方は、海外にはない。」と。内地でよく耳にするそれらの言
葉も、日本特異の課題状況を示している代物であると言えろ。

長男は補習校に在籍させ、アメリカカンパブリックスクール
に通学させた。そのため、受験用の中学理科・社会の欠落を余
儀なくされたが、ブラック・スパニッシュ・コリアンと十数余
の故国の異なる民族の友と接触できた。現地校通学と言っても、
まさに、マルチカルチャー(多重文化)の中での生活であった。
長女も現地校を希望したが、高校入試を考え全日校に在籍さ
せた。内地には見られないまでの家庭的な温かさや熱意あふれ
る指導のおかげで、今は彼女も志望の秀泉校に通学中。全日校
で影響を受けた人を三位まで言わせてみた。考えの堅い米国生
まれ級の友・カジュアルな米人英語教師・アメリカナイズされ
た現様の米社・美術教師を挙げた。異質な人間との出会いが、

インドネシアの教育事情

―インドネシアの文化と教育―

ジャカルタ日本人学校
岡山県総合文化センター 井 関 繁 孝

インドネシアは不患讓な國である。近代と現代が同居している。確かに首都ジャカルタの中心街ースデルマン・タムリンなどのメインストリートには、近代的な高層ビルが建ち並び、発展途上國の息吹きを感じる。世界中どこも同じであるが、メインストリートを一步入ると、スラム街である。たて穴式住居とさほど変らない掘立小屋のような部落が、ハチの巣のように折り重なってある。部分的にはオランダ統治時代からの家賃一千ドルという高級住宅地域もあるが、それもジャラン(通り)を外れると例外なくスラム街である。ちなみに電灯の普及率も、首都ジャカルタ(人口約六五〇万)においてすら10%に充たないという。夜通りに、高級セダンの外車が走っているかと思つと、夜通りに、ベチャと呼ばれる人力三輪車や日本ではどうの昔に姿を消したタイハツミゼットの三輪車がタクシー代わりの庶民の重要な足となっている。最近、シンガポールスタイ

ルのショッピングアーケードやデラックスな大型スーパーが進出し、ジャカルタの商圈を大きく変えようとしているが、裏断では相変らず行商の物売りが鳴りものや呼び声よろしくのんびり売り歩いている。それも、「いかけ屋」・「こもり直し」・「くつ修理」・「食べ物」・「雑貨」……ありとあらゆる物売りが早朝から夜半まで引きも切らず延々と続くのである。これは極くありふれた生活風景の一断面であるが、その原因はオランダ三百年の植民地時代からの貧富の隔差という構造的矛盾によるものではあるが、ともかく、インドネシアは近代化と現代化が同時に進行しながらも、このアンバランスの上に成り立っているように思える。年間平均國民総所得は四百ドル、シンガポールは三千八百ドルというから、およそ十分の一弱で、数値的には東南アジア最低であるが、インドやアフリカのように餓死者はいない。年中米の収穫があり、(一九八一年米の自給達

成政府発表)果物は安く豊富である。それに宗教(ヘイスラム90%)の生活化であるゴトンヨロンの精神(忠まれた者は、貧しい者に分け与える相互扶助)が普及しているからであろう。地べたにゴザを敷き、竹を組み合わせた壁に草ぶきの屋根、半裸にはだしの子などを見ると、われわれの既成概念からすると貧困と不幸にあえていえるように思えるが、しかし、彼等にとつては、熱帯という風土の中で生まれた快的な生活様式であるのかも知れない。インドネシア人気質として、「テイデアバアバ」という日常語があるが、「気にしない」、「何でもない」と言ふ軽い意味に示されるように、「その日暮し」、明日のことを「あくせく」、「くよくよ」せずのんびり生きるという心情が浸透しているようである。彼等の生活を比較してどちらが幸せなのかを考えさせられる。人口一億四千七百五十万人のうちその70%がジャワ島に集中している。領土は日本の五倍あり、一万三千有余の世界一の多島国家でもある。東西およそ五千五百キロを越える海域を持ち、太平洋の首飾りと言われる。しかし、そのほとんどは、未だ無人島であり、特に日本本州の三倍もあるカリマンタン(ボルネオ)島は、天地創造以来人跡未踏のジャングル地帯がある。カリマンタン開発を含め、未開発資源は未だ無尽蔵にあると言えよう。

資源ゼロ国である日本にとって、インドネシアを始め、これ等開発発展途上国との友好関係なしには、将来の発展はあり得

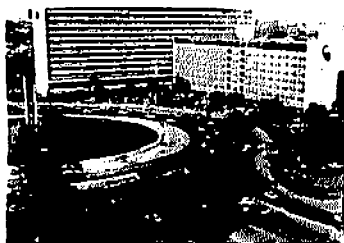
ないことは言うまでもないことであろう。そのためには、単に経済的な結びつきだけではなく、教育・文化の交流による相互理解がよりいっそう促進されなければならない。日本企業の進出は圧倒的であるが、自動車や電気製品の買える層は二、三千万人であり、一億人以上は商圏から切り捨てられていると言つて、大多数を占める下層階級の生活に密着した中小弁企業が進出が望まれる。また、大企業は利益の何%かを教育文化交流基金への投資を制度化したり、政府の文化交流面での積極的な施策が今後の友好関係を深める重要な課題となるであろう。

インドネシアは文字通り発展途上国であり、その持てる人的物的資源が科学・技術・文化と有能な指導力(政治力)に結びついた時、計り知れない底力を発揮することは歴史の証明するところである。

1 インドネシアのあらまし

(1) 大南洋の首飾り

インドネシア共和国は、北緯6度から南緯11度の間南北約一九〇〇km。東経92度から東経141度の間、東西約五一〇〇km(日本―インドネシア間の距離に相当する。)にわたって大小一万三千余の島々が散在し、全領域の空間の広がりにはほぼアメリカ合衆国のそれと等しい世界最大の多島国である。総面積は一九一九九千平方kmだが(三七五万平方km)の約五倍、人口は、



プレジデントホテル 11階より

一九八一年三月に一億四七四九万人といわれ、面積・人口共に東南アジアの半ばを占める大国であり、世界的に見ても、面積14位、人口は日本より多く第5位となっている。この人口が、首都ジャカルタのあるジャワ島(六、八九%)に総人口の六一、八八%が集中し、人口密度ではこれまた世界第一位にランクされている。

しかも、その構成する種族は多く、種族毎に風俗・習慣も異なり、言語だけでも四百数十種類に及ぶ。したがって、国のスローガン(国是)は、「多様性の中の統一」であり、一九二八年一月二八日にジャカルタで開催された第二回青年会議で、「ミナンカバウ族(今日三百万人)の使用していた「ムラユ語」(ジャワ語のように言語の階級性を持たず、また、外来語に対する柔軟性にも富む)を「青年の誓い」として満場一致で採択し、インドネシアとして「偉

大なインドネシア」に結びつける統一の言葉になった。

この国は未だ独立三六六年の若い国であるが、歴史的には中部ジャワのソロ川の支流河畔トリニル周辺からジャワ原人(ピテカントロプス・エレクトス紀元前五〇万年〜三万

五千年)が発見された古い国である。七、八世紀には、中部ジャワのポロブドールに世界最大の仏教遺跡を残したシャイレンドラ王朝が栄え、以来幾多の王朝の興亡盛衰を経て、一七世紀にオランダが東インド会社経営の拠点として、ジャカルタをバタビヤと改名してジャワ最初の占領地とし、以来三百年間の植民地時代が続くことになった。

一八一一年から一六六年間、イギリスの一時的統治があるが、ほとんどがオランダ時代といえる。一九四二年、日本軍が突如として進駐し、オランダ軍を撃退して日本軍政下に入る。一九四五年日本軍の敗戦により、ただちに八月一七日「独立宣言」を発し、以後、イギリス・オランダ連合軍と戦い、遂に一九四九年一月二七日に、自らの手によって独立を勝ち取った。バタビヤはジャカルタと改められ、旧市街バタビヤ南数kmの所に新市街が建設されている。

(2) ドリアンの季節

戦時中、「ジャワのマンゴ売り」という歌が流行したことがあったが、マンゴのことは現地ではマンガといい、果物の女王をマンゴスチンといっている。マンゴスチン(マンギスともいう)は、かっ色がかつた深紅の外皮をかじって淡い顔をしたら人もいるほど、見た目も愛らしい果物で、固い厚い皮をむくと種子が放射状に並んでいて、そのまわりの果肉は乳白色のみずみずしいもので、その気品のあるエレガンスな味は、「女王」の

名にふさわしい品格のあるものである。

かつて、香料を求めて来航したヨーロッパ人が、そのどろけりような甘酸っぱい珍珠に驚き、船いっばいに積んで帰つたが、食べられたのは二、三個で、あとはみんな腐つていたという。イギリスのエリザベス女王が、「ぜび」と望んだが、採つてから三日位しかもたないため、当時、船で運んでも食べられなかったと伝えられる。

ハイビスカス・ブーゲンビリアなど、一年中咲いている花もあるが、火炎樹（フランボヤン）など、雨季（10月～12月）に咲く花もある。

ジャカルタ（首都特別区域）は南緯六度一〇分に位置しており、熱帯雨林気候に入るが、サバナ気候とも複合して、一年は、乾季（五月～一〇月）・雨季（十一月～四月）に大きく分けることができる。したがって、西方の気候の影響を受けるので、乾季は夕刻雷雨をともなうすさまじいスコールに見舞われるかと思つと、雨季は一日中雨が降り続き、じめじめして皮革製品など、かびが生え梅雨を思わせる。しかし、年平均気温二六、九度で朝晩の気温に多少の変化があるほかは、日中の直射日光は衰らず、年中高温多雨の常夏の国である。

何といつても、季節感にあふれるものは果物であろう。パパイヤ・バナナ・パイナップル・バナナは年中であるが、ジャンプーは六月ごろ、ランプータン・ドリアンは十一月、十二月が最盛期であ

る。ジャンプーは赤いほおづきより大きく、青いこのような味がする。ランプータンはゴルフボール大のこの果実は、一面柔い毛でおおわれています。色は種類によつてグリーン・イエロー・赤といろいろですが、果肉は真珠のような丸いもので甘酸っぱい味が忘れられない。

さて、果物の王者ドリアン……先ずその強烈な臭気に当てられて、食べずぎらいの人が多い。トイレの悪臭を連想するからである。グリーンのとけとけておおわれたアメリカンフットボール状のこの果実は、ホテルや機内への持ち込みは禁止されている。しかし、私には悪臭とは感じられない。むしろ芳香とは言えないまでも、このにおいが街いっばいに立ちこめると懐しさがこみ上げてきて、「ああ、今年もドリアンの季節がきた」思わずつぶやくほど南国の単調な季節感に刺けきを与えてくれるのである。これは、果物の中でも値段も高く、また、あたりはずれもあり、外見ではわからないので、中味を確かめて買った方がよい。ナイフで果皮を切つて割ると、あけび大の白い実がぎゅっりつまつている。薄葉がかつた練乳のような水分のあるねばつこい物が当りである。ひとつの実を取つて口にはおぼろぐ、大きな種を包んだ白い果肉は舌にとろけるように広がり、その甘味は例えようもないほどの珍珠である。今日生きてこの美味を味わう喜びを神に感謝したくなるほどである。季節の変化の乏しい熱帯では、これらの果物が微妙に変化する季節感を知ら

せてくれるのである。

2 教育の実状と課題

(1) 教育制度 憲法第31は、すべて国民は教育を受ける権利を有することを定め、政府は義務教育制度の実施に努力しているが、教育施設、教員不足のため、未だ建設途上にある。オランダ植民地時代末までに、各種初等教育を受けた者が七千人中五千人、各種中等・実業学校を終えた者一万人、大学教育を受けた者は、わずか八十名に過ぎなかった。政府統計によると、就学率は、小学校六五・六%、中学校二〇・一%、高校一九%（一九七五年）となっている。

一九四五年、独立と同時に六年制の小学制に改め、一九五〇年には教育制度を公式に決定した首都ジャカルタでは、大部分の子ども達が初等教育を受けている現状にある。彼等が通学している学校生活の実際はどうか、その全部を紹介する力はないが、三年間の在任中、学校訪問、交流学習、外からながめたりした印象を述べることにする。

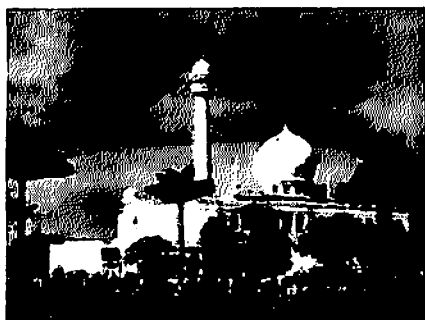
(2) 「ヤミ」と「ヒカリ」 教育文化省BPKが発行した一九七九年版によると、極めて貴重な資料が掲載されているが、学校教・就学者数・教員数等は次のようになっている。

区 分	学 校 数				就 学 者 数		
	1940	1945	1950	1978	1940	1945	1978
小 学 校 (教員数)	17,848	15,069	24,775	92,246	22,592,45 (45,415)	25,134,10 (36,237)	19,232,872 (59,253,9)
中 学 校 (教員数)		114	509	9,505		90,000	3,964,020 (14,936,3)
高 校 (教員数)		30	98	8,681		18,000	12,900,44 (85,939)
大 学 国立 (教授数)		5	17	47		1,600	17,333,32 (38,826)
	植民地	日時代	インドネシア			独立時	独立後

独立した年そして一九五〇年の名実共に主権国家として計画的な国づくりにスタートした年（この間は独立戦争中）、そして最新資料の一九七八年である。

絶対数の巨大な増加が先ず指摘され、極く一部の階級のものでしかなかった就学が、今やどんな村にも学校があり、就学を可能にしている。子ども達も列を整えて通学する光景に感服を覚えた。旅行しなかつた数多くの島々でも、おそらく学校の設置分布という点では同様であろう。

ただ学校があつても、就学しない者、学籍があつても登校しない長期欠席者がある。全民就学には、あと一息という現状にある。



民衆の心の支え モスク

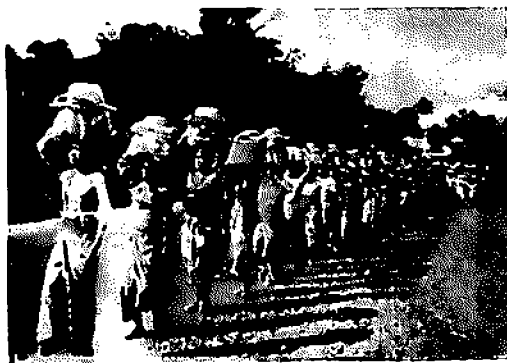
現在のインドネシアでは、小学校入学の足並みが、満六才以上とはいかない。また、課程進級主義で、小学一年生から落第制の欧米型で、卒業年も不そらいとなる。この結果小学校児童が六才か

ら一七才、中学校生徒が一才から二〇才にまで分布している。(8) 実状と課題 幼稚園は私立が多く、国立はジャカルタで七施設。三―五才の各保育クラスがあり、教具はまずまず。教室・運動場共にせまい。小中学校でも共通にいえる。また体育が学校教育の中で位置づけられていない。

教育施設不足を補うため、小中高共に二部制を採用している。建物は中庭を囲んだ口の字型で、この校地に四校あり、朝の学校が第一学校と第三学校（七時―一二時）で二人の校長。この後、校長・教職員も代って、第二学校と第四学校（一二時―一七時）になる。したがって、街中で新聞や煙草等を売ったりして働いている児童生徒たちが学校へ行っているかどうかを確かむのはむづかしい。教員の待遇は低く、「歩いて通勤する先生のかたわらと車で児童生徒が送迎され、ステレオの原理を説明する教師がさわったこともなく、子ども達は家でそれをいじっている。」ということもある。

児童生徒は、ノートだけを持って通学する。個人で購入できない者も多く、二人で一冊の教科書を使っている光景も珍しくない。一週間に二種類の制服に着がえる交代日は、学校で指定する。汚れやすいので洗たくをさせるためである。

授業は、チョークと黒板が主で、暗記力を求める知育に熱心である。公私立および学校間の格差は大きく、国のカリキュラムは一九八二年度に作製の段階にある。小学二年生まで地方語の指導



バリのおまつり

を認め、三年生以上の学校教育は、全てインドネシア語を使用している。一九八四年までに小学校六年までの義務教育を計画しているが、現在三年までで、貧しさもあって中退者も多い。

学校教育の全国共通・インドネシア語教育の重視・祖国愛が三本柱で、多民族国家での教育は、国民の国家意識の形成・強化を目的とする統一言語の普及化運動の推進なしに強力な統一国家は成立しないといえる。中学校の三年生から文・理科系に分けられる。理科系から文科系転科受験より、文科系コースから理科系への転向の方が相当の努力を必要とする。理科系の学

校が多く上位の生徒が履習している。戦前二校であった大学・短期大学が、一九七九年末現在、国立大学は四七校、私立大学は三四二校、学生数は三六万余人の多きに上っている。

3 インドネシア人気質(文化と風俗)

(1) 文化

インドネシアは、「インドの島」という意味が示す通り、インドと中国の中間に位置して両国の影響を強く受けている。文化的には中世以降アラビア商人の通商路としてイスラム文化圏の影響下にある。しかし、古代から中世にかけては、インドからの仏教・ヒンズーの圧倒的影響を受けており、中部ジャワのプランバナンには、仏教とヒンズーが見事に融合した巨大な石の摩天楼(ジョジョロングラン)がそびえている。現在なおバリ島は、ヒンズー仏教の文化を継承している。インドネシアの美術品といえは、ラマヤーナ物語(インドの古代仏教・大長編叙事詩)に象徴される仏教ヒンズー系の美術品がほとんどである。民族芸能(バリダンス・ワイヤン・人形影絵劇)なども例外ではない。現代のインドネシアの文化は、かつて日本がそうであったように、欧米志向型である。上流階級は、今もオランダ語を話し、知識層は英語を話す。軍隊もアメリカ式装備と訓練をしており、留学生も欧米を希望する。若者連には、ジャズ・ディスコ調の音楽が人気がある。

人的構成から見ると、マレー系インドネシア人が九〇%を占めているが、中国系華人(東南アジアでは最も低い比率である)が大企業や都市の商圏を握っており、インドネシア経済を潜在的に支配しているといえよう。したがって、反華人感情には根

深いものがあり、一触即発の反暴民暴動が広がる恐れがある。

インドネシアの産葉の中心は農葉であり、稲作が主であることも日本と類似している。我国と異なるのは機械化は皆無ですべて手作業による肉体力労働である点にある。人口が余って機械化すると失業という社会問題が起るので政府も奨励しないのである。二期作・三期作が行われ、道の右側で田植え左側では稲刈りをしている風景がいたるところで見られる。郊外へ出ると日本では失われた田園風景が懐しくよみがえるようである。人々の心にもそれが残存している。

この国は、天然資源に恵まれており、石油・木材・すず・ゴム・天然ガスなど、未開発資源も未だ多くある。海に囲まれた



民衆の足・ベチャ

海洋国家であるインドネ

シアは水産業を含めた海洋資源の開発についてもほとんど未開発といえる。

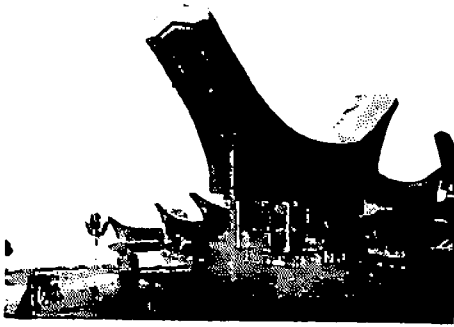
インドネシアの国民が生活をする上で日本をそれほど必要としないが、日本にとってインドネシアは、輸出入ともにかけがえない国であることを忘れてはならないであらう。

う。

(2) 生活

インドネシアの朝はすがすがしい。樹の緑はみずみずしく小鳥のさえずりにこれが赤道直下の国かと思いきや、人々の朝は早く、郵送ことにある回教寺院の朝の祈りの呼びかけて始まる。「トボン・ザー」と水浴びの音が聞こえてくる。マンデラといって朝夕二回、水そうの水をくみ何度も体にかけて身を潔める習慣がある。やがて太陽が昇り始めるころ、食べ物盤が鳴り物入りで通り過ぎていく。あかゆ・パン・野菜とそれぞれ独特の音を出す。一家に朝食は簡単でしかも弁当持参の習慣がない。家庭では昼ころからやし油と香辛料をふんだんに使用し長時間かけて手のこんだ料理を作る。パサル(市場)へ行く日本の物価の10分の1程で買える。ある商社マンの話によると、一億人は商売の対象外であり、日本のような中間層は少ない。

朝夕の通勤時間は日本の比ではない。「バヨルーバヨルー」バスの車掌が身を乗り出し、手を振りながら叫ぶ。行先のKe Bayoran Baru を締めたものである。右に傾いて走るバスは手を上げれば止まり、黙っている走り過ぎ、エキサイトしてバスレースの感がある。バスはのんびりムードのインドネシアにあつて、最もスピーディーで活気があり庶民の大切な足である。人件費は安くメイドの給料が住み込みで四〜五千円、



ミナンカバウ地方の家

インドネシアの国家目的は、パンチャシラであり、生活の原理を支えているのはゴトンヨロンである。ゴトンヨロンの精神で富者は貧者に恵みを与え、貧者同志も互いに生活を助け合う日本軍政下の唯一の遺産ともいふべき隣組制度(RI)が定着し今日も活用されているのも、この精神になじんだためである。また一方

運転手が約二万円で、家族の生活を支えている。しかし、最近では物価が上昇し二〇〜三〇%位で、新製品の次々の流入があっても、購入できない下層民の不満は増大しているといえよう。政府は一九八一年四月一日からコマーシャルと不労所得である賭博行為を一切禁止している。テレビは、国营放送局(RRI)一局で東西五千回の国土に放映しており、同じ国民でありながら、コマーシャルの品物を地方の人々の中には、見たこともなかったことのない者がいるからである。

では宗教が生活を支配している。一日五回のモスクへの礼拝は、毎日必行され、特にラマダン(断食月)には朝四時〜夕一八時までの断食が子どもまで実行されていることは、いかに宗教の力が生活に深く浸透しているかがわかる。ラマダン明けのレバランの大祭は国民の祝日であり、日本の正月とお盆がいっしょにきた様子である。

帰国後も忘れないであろうことは「マハル」(値段が高い)というインドネシア語がある。交渉で成立した値を「ハルガ・ヒドゥップ」(生きた値)。正札の定価を「ハルガ・マティ」(死の値)という。定価支払いのものにはバス代と電気代・電話代とスーパーマーケットの買い物くらいである。ほとんどの物に定価のついていないインドネシア! 豊かな者は貧しい者に恵みを与えることのイスラム教の教えが定着している社会では、赴任外国人家族が先ずこの洗礼を受ける。住めば都、値段の交渉をして庶民の足ーベチャに乗る。雨の日は透明ビニールを下にたらし、ずぶぬれになって力いっぱい自転車こぎ、早朝市場から台所へは荷物輸送車に早変わり。日が沈み、やしの葉を涼風がなで始めるころ、南十字星を探しながら走るベチャは両サイドの車輪がリズムをそえてくれ、隣りに「心の友」の身体ぬくもりを感じさせる。日本では失われた明治の情緒が感じられて懐しい。



不思議の国ペルー

ペルー日本人学校

大佐町立大佐中学校

安達 忠己

太平洋を渡って

昭和五十七年四月七日夕刻、成田空港をブラジル航空DC10にて出発。家内と四才の娘由紀を伴っての旅立ちである。

リマ市の中心部、大通りのヤシ並木

前日からの雨が残り、空港一帯はもやに覆われていた。出国手続は搭乗予定時刻の一時間前に済ませ、ロビーにて待機。しかし、結局はあたかもペルー時間を予告するかのように一時間以上の遅延。飛行機の遅れは何かしら海外生活の未経験

者には邪念を誘発するらしい。この南米の旅客機、落ちたはなにかと一抹の不安を抱くのであった。DC10の事故は他の機種を圧倒しているとも聞いていた。正直なところ、この種の乗り物はあまり快適とは言えない。いくら百万分の一の事故の確率という数字は知っていても、不安はつきまとう。離陸と着陸の際に目を閉じている輩は、皆、この航空機搭乗不安症候群をひき起こしているであろう。

ロスアンゼルスまで約九時間。まさに食っては寝てというパターンの連続。日付変更線を越えてしばらくすると急遽に北米の朝日を拝む。あまり美味ではない、二度目の機内食をとり、朝からビールのお世話になりながら、ロス空港へと機は滑り降りるのであった。二時間の給油・休憩の後、ロスを離陸し一路リマへと向った。

ロスーリマ間八時間の旅を終え、ペルーの首都リマに到着したのは現地時間の夜半一時頃。税関で荷物をパスした後、ゲートをくぐる。と出迎えの方と対面。

とその時、一人の男が小生のトランクを持って車で。他の人のトランクはロビーの中央で盗まれないように取り囲まれているのに自分のだけは進み方向に。「泥棒！」事態を事務長さんへ伝えると彼も慌てて外に走り出す。荷物を持ち去った彼は日本語が通者だった。「あの荷物はもう車に入れたよ」という声。

この先生、色が黒くてまるで現地のインディオ風の容貌であったものだから、頭から泥棒と思ひ込んでしまったのだ。十九時間の旅の終りに、その後のリマ市内、いや中南米の治安の悪さを象徴するかのような茶番劇をやつてのけたのであった。

そして、休もつとしたのが午前四時。すると、何やらけたたましいミュージック。この日は週末の金曜の夜。遠慮会釈なくペルー人達が踊っているのである。隣近所からいささかのクレームも出ない。日本的に考えれば深夜の騒音は人迷惑も甚しい。ところがここは南國、お互いにフランクなのだ。

共和国の概要

ペルーは南米大陸の太平洋岸の中部に位置し、日本の約三・五倍の面積で、中南米で、ブラジル、アルゼンチン、メキシコに次ぐ四番目の大国である。国土は海岸の砂漠、アンデスの山岳、アマゾンの森林の三つの地帯に分かれ、これらの地帯が国土面積に占める比率は、それぞれ10%・30%・60%で、この地域はそれぞれ異なった地勢と気象を有している。

最大の国家資源はアンデス山中より産出される銀・銅・亜鉛などの金属産品（銀は世界第一位）とアマゾン流域の石油の地下資源である。

政治は共和制であり、人口千七百万人のこの国の人種は白人（10%）メステイーンと呼ばれる混血（40%）、日本民族と類似

性を有する現住民インディオ（60%）から成り立っている。また、国語はスペイン語であり、英語は白人や一流ホテル、レストランを除いては使用されていない。

一方、在留日系人の数は、約七万人で、このうち60%以上がリマ市とその周辺に居住している。職業別では商業、特に飲食店や輸入業を営む食品雑貨店が多くて、ついで綿花・野菜・果実を栽培している農業および養鶏業である。なお、出身地別では、沖繩県が最も多く（全体の60%）、その他熊本・福島の順である。



首都リマの中心部…セントロ

岡山県出身者は、約四十世帯で年三回県人会を催し、県から送られてきたニューズや郷土紹介のフィルムを見ながら歓談している。昨年は岡山県人会結成三十周年を迎え、県庁職員・代表者が十数人遠路かけつけ、会も盛り上がった。

わが国の対ペルー進出企業は、一九六一年日本鉱業によるコンデスタール鉱山における銅生産を第一号として、現在では商社や進出企業駐在員事務所など合計五十社以上に及んでおり、家族を含めるとその数は約六百人にのぼり、中南米ではブラジルに次いでいる。

国民の三分の一が集中する人口六百万人の首都リマは、南緯十二度の海岸に面した砂漠地帯の真中にあり、一年中ほとんど降雨を見ない。緯度から見て熱帯圏に入るが沿岸を北上するペルー寒流の影響で夏も涼しく、最高摂氏二十八度(平均二十四度)、冬は最低十二度(平均十七度)といった気温である。五月末から十月末までの冬期は、連日曇天で太陽がほとんど顔を出不さない。降雨はこの冬期の間に限って、主として夜間にガルーワと呼ぶ驟雨が時々ある程度。しかし、雲の上は二十五度前後で、陸上と上空で気温逆転現象を引き起こしている。

政治と経済

革命軍政権の共和国であったペルーは、八十年五月、民政移管のため大統領選が行われ、新大統領に知日家であるペラウワン氏が圧倒的な支持を受けて返り咲き、十二年ぶりに軍政に終止符が打たれた。しかし、高令と任期中の対外債務問題、インフレ等の社会状況の悪化のため、再選を断念し、今年の四月の大統領選には出馬せず、中道左派の候補が圧倒的な国民の支持を得ている。国家総督は、まさに白人の白人による白人のための政治といっても過言ではない。資本を支配する特権的な少数の白人と一般大衆の間には激しい貧富の差が見られ、生活水準には大きなギャップがある。

赴任した一九八二年に一ドル五百ソール(現地通貨)であったものが、一九八五年の帰国時には、何と八千ソールにまで為替相場が激落。そして輪をかけたようなインフレ。一年間の物価上昇率は実に百二十%である。このため最低賃金二十五ソール(日本円で二万円程)の一月の収入しか与えられない大衆の生活には厳しいものがある。

インディオは極度に貧困であり、社会的地位もすこぶる低い。日本でいう一億総中流意識が象徴する国民生活とは趣きを異にしている現状である。

治安

富の配分の不均衡からくる低所得者層、失業者の多い国柄を反映してか、強盗、盗難はあつと断たない。街中を歩いている際のカメラバッグには常に注意しておかなくてはならない。首にかけたカメラも、ひもを刃物で切つて落としたりと、首を持ち去っていく。

左ハンドルの車がすべてだが、左手にした時計も、窓からひじを覗いて見せていると、かっぱらわれる。危険だから右腕にはめておいたら左手を針のようなものでチクリとやり、痛みを感じて右手を出した瞬間、帰らぬ物となる。

車も危ない。窓ガラスを壊し中のカセットを盗む。もちろん車ごとさようなケースもある。それで車には警報装置を必ずつける。ドアをこじ開けられると警笛を発するしくみである。私自身も三回、このアラームのお世話になり、ミニ泥棒を退散せしめたことがある。

家も狙われる。同僚の奥さんが昼間、買い物から帰って玄関のドアを開けた瞬間、ピストルをつきつけられたという事件もあった。銀行強盗も頻繁で、街中でよくパンパン銃撃戦をやっている。

警察を見たら泥棒と思えどいのはジョークではなく、的確を得た言いくさとなってはいる発展途上国ベルーである。

保健・衛生

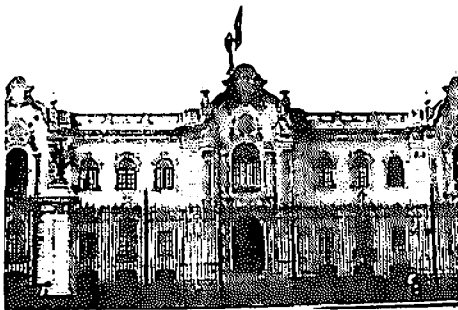
水と治安の世界中で最もよい国。実は日本である。外に出てみて身にしみてそのことばの意味がわかる。中南米どこを回っても生水は飲めない。水は必ず湯わかしを冷やして飲む。生水を実験的に飲んでみたが、何だか気持ちがよくない。

アンデスより下る河川から上水道を通して各家庭に配水されているリマ市であるが、余り塩素滅菌の効果はよくないらしい。胃腸の強い人、コンディションのよい時などは下痢に見舞われることもないが、逆のケースは日常茶飯事である。日本からリマに行き、先ず異国の洗礼を受けるのは、この行事である。ところが、

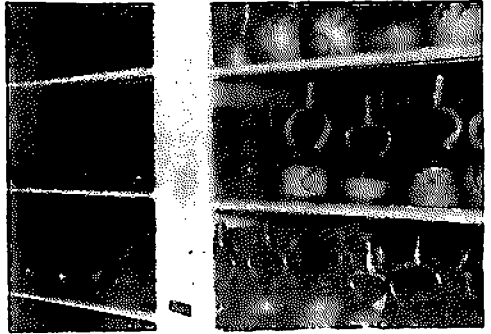
ひと時経つと免疫がでるのか、このケースも少なくなってくる。

食物にも要注意、特にレタスなどの生野菜とイチゴなどの果物。

チフスにかかる大きな原因も、このあたりにあるという。現地大使館医務官のお話しを聞くともう何も食べてはならぬ、相当の不健康



大統領官邸(スペイン風の白い建物)。屋上に国旗がひるがえっている。



インカの遺跡…「ワコ」と呼ばれる
(リマ市から30キロ南にある)

地のように思えるが、
そうもいかず、私自
身気にもせず、大い
に生野菜は食した。

ちなえにチフスにか
かって入院も隔離
もしない。薬だけで

ある。日本人学校の
児童生徒で保菌者が
発病しても、欠席は
するが教室等の消毒
はされない。チフス

の中でも比較的症狀が軽度で、このような死因で済むようである
が、日本に一時帰国した人が下痢になって診断をおおいだところ、
不幸にもチフスと確定し、隔離と相成ったケースがある。日本の
医療制度とはやはり糞泥の差があることを感じさせる。

エル・ニーニョ

一九八二年の十二月頃から約三分の二か年、ペルー沿岸に大規
模な気候の異常現象が発生した。その名をエル・ニーニョ(神の
子)という。クリスマス頃に起こるのでこの名がついている。

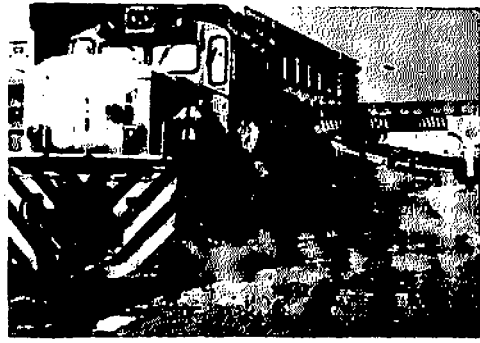
平常、ペルー沿岸には、ペルー寒流が南極からエクアドルとの
国境近くまで北上しており、赤道に近い南緯十二度のリマ市付近

には暖流は押し寄せて来ない。そのため沿岸に吹き寄せる風は
冷たく、夏の摂氏二十七、八度の日中でも、木陰や家の中に居
れば、汗をかきこともなく、涼しい。

しかし、何年かに一度、この異常が発現する。ペルー沖まで
赤道付近の暖流が南下してしまうのだ。このため気温、湿度が
上昇し、まるで熱帯にいるのと同じ様相を呈してしまう。気温
三十度、湿度一〇〇%の夜が続けば、体はグツタリ。

この史上最大のエル・ニーニョ現象が、赴任した最初の年に、
ペルーを訪問なさったわけである。この異常気象は、数多くの
悪影響を及ぼした。ペルーだけでなく、その年の日本の暑い夏
にも影響したという記事が日本の新聞に大きく報道されていた。
ペルーではこの時、湿舌もどきの風が沿岸から山間部に送り

込まれ、未曾有の集中豪雨となり、農産物や市民生活に被害が
出た。水産では特有のペレ(アンチョビとも呼ばれる小イワ
シ)や、ツボがたった五十円位で買うことのできたウニ、それ
にイカなどが海水温の上昇のため全滅した。ペレレという魚は
海鳥たちが食べる。そしてその糞を採集して肥料として輸出す
るペルーにとって、金属に次ぐ第一次産品のドル箱であるだけ
に、痛烈な打撃を受けた。そして、今もなお、この三種の魚は
ペルー沖に姿を見せていない。誠に人間による自然破壊ではな
く、自然による自然破壊もあつたのかと考えを新たにしたもの
である。



世界最高地（4800m）を走る列車

この間、リマ市では扇風機（クーラー）とまではいかない（が先れに売れ、商店では在庫が底をついた程であった）。

集中豪雨で被害の大きかった地方に支援物資や義援金が送られた。しかし、具知事や市長など幹部クラス

の懐に全部入り、ポランティアの心と住民の心を踏みにじり行いがなされていたという。

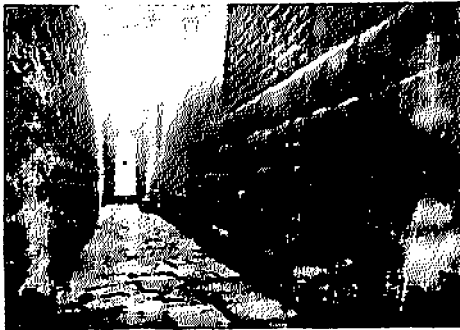
これであるから、いつまでも国は栄えず、発展途上国だ。三年間住んでみて、ペルー人はほんとうに権力と金に弱い国民である。とつくづく思い込まれたものである。

払い下げ DCC8機とペルー時間

日本では騒音規制の対象となり、お払い箱となったDCC8の飛行機（一九八二年二月、羽田沖で墜落した機種）も、お国更

ればで規制のない中南米へ払い下げられる。何しろやかましきにおいては、無頭着な国民であるから一向にかまわないし、それに新機種までは経済的に手が伸びないということから、日航のDCC8中士機を購入することになる。

赴任した最初の年の八二年八月に、かのインカ帝国で世界的に名を知られ、外人観光客の多いクスコ、マチユピチュへ行つた時、このDCC8でリマ空港から標高三千メートルのクスコ空港まで送ってもらった。タラップを上がり機内に入ると、すくに目に入ったのが日本的な模様で装飾された壁である。よく見ると日航のシンボルマークの鶴なのだ。この航空会社名はアエ



カミソリの刃も通さないと云われるインカの石だたみ

ローペルー。なぜJALがアエローペルーなのか？自分の席にすわってみる。と右側の方に「非常口」という漢字が目につく。そうこうしているうちに、この飛行機はお下がりののだと想像

てまてくる。

飛行機の話のついでだがペルーの旅客機の発着時間のいい加減なこと。まことに恐れ入ったものだ。一時間遅れはさらで激しいことになると、五、六時間の遅れを出すこともある。天候の異変が原因ならばまだしも、パイロットが空港にやってくるのが遅いとか、機内食が間に合わないとか、日本で言えばお話にならない程のお粗末な理由である。だが、これが南米の地だと理解しなくてはならない。そうしないと腹が立つし、健康に悪い。

スペイン語に「マスメノス」という語がある。「おおよそ、だいたい」という意味であるが、ペルーの人達の生活の営み方、仕事の進め方を総合すると、まさしくこの言葉「マスメノス」が彼らを象徴しているように思える。

もつひとつスペイン語で「アシタ・マニアーナ」(また明日)というのがある。ペルー人の仕事の処理のまずさをたとえて、「アシタで間にアワーナ」と発音するのは日本人だけであろうか。

日本の新幹線や旅客機の遅れが原因での払い戻しなどは当地の発想としては、考えられないことである。しかし、この「マスメノス」であわてない性格のためか、ペルー国内に二社ある航空会社の飛行機は、過去に一度も墜落したことがないそうだ。

インディオの音楽

エル・コンドル・パサ(コンドルは飛んでいく)はひと昔前アメリカの二人の学者のデュエット、サイモンとガーファングルが世に出し、世界的に有名になった曲である。その原曲はこのアンデスに住むインディオ達のロザさむところから発している。歌詞をつけずに、アンデス山中で原地インディオの作った楽器での演奏を聞くと、まことに素朴で、かつその中にもどこともなく哀愁のこもった情感があふれているように感じられる。その中心となる楽器がケーナ、チャランゴと呼ばれるものである。

リマ市内にはペーニャといういわば大衆的な酒場が多くあり、入れ替わり立ち替わり、このアンデス音楽を聞かせてくれる。私の一番印象に残ったアンデス音楽は、チチカカ湖(世界一高い位置にある湖)沿いの標高四二〇〇以上の音の降りしきる山頂で、フイエスタ(祭り)に偶然出くわした時のものだ。その音楽は観光のためのものではない。ただ人々の生きている姿を写し出してくれるものであった。

こうしたアンデス音楽の素朴な響きと比べ、リマ市内や各地方の旅する所で耳にする、イレ(踊り)の音楽は全く趣きを異にする。異するに楽天的な南米の音楽なのだ。テンポが速く、演奏は鼓膜が破れそうなボリュームでやってくる。音の振動が体に伝わってくるような音楽でない満足できない性格なのだ。

だ。

ある日本の電気メーカーが、ステレオの生産販売をリマで行っているが、ベルー人にスピーカーを数多く買ってもらおうとするには、先ずこのポリウム（特に低音）がいっぱい出てくる出力の高いメカニズムが要求されるといふ商売談話を耳にしたことがある。

土着のアンデス音楽と陽気なバイレ音楽との間に、ベルーという国の文化の一面がのぞく。

女子バレー。全日本対ベルー

八二年の九月、リマにおいて女子バレーボール世界選手権が開催された。小島監督率いる全日本チームには、今は引退した江上、三屋選手をはじめ顔なじみの選手達がいた。もちろん会場が親戦。カードは日本対ベルー。

日本は韓国を破り、ベルーは韓国に惜敗した後で、勝ち点や得失点差の関係で韓国とベルーは順位上微妙な位置にあり、まさしくベルーにとってこの対日本戦は重要な試合であった。

ベルーの女子バレーボールチームは亡き加藤監督の指導のもとに急成長し、高いジャンプ力とパワーで実力を上げてきたチーム。メキシコオリンピックで四位が最高の成績であった。加藤氏が名実ともにハングリイな地方の選手を、手弁当で仕立て上げたチームである。



全日本チーム（会場前で）

さて、試合は第一セット。何と簡単に日本はベルーにやられてしまう。この時から三万人の観衆が一斉に会場割れんばかりの大声援。第二セットもベルー。ようやく第三セットを取り返したが、既にベルーにとってみれば王手。第四セットの粘りもなくベルーチームに勝利の旗は上った。なぜぞ、あっけにとられたあの瞬間が今も忘れられない。

この結果を見た韓国チームは激し、日本チームのベルー戦は八百長であると訴え、現地日本大使館で日本チームの記者会見というところまで発展。

第三者として両論を上げてみると、こうである。日本チームは生水も飲めず、慣れないベルー食などで体調を崩したことが敗戦の原因とする見方。もうひとつは、実はベルーチームの育ての親、故加藤監督は日本人。氏はこの年の三月に急逝した。その半年後のリ

マ対戦となったわけで、この試合が串い試合とする見方である。

加藤氏が亡くなったハ二年三月、大統領弔意が有力紙に発表された。大統領が一外国人に対して哀悼の意を表明することは異例のことであった。その大統領の語った内容についての記事の見出しにはこう書かれていた。「ペルーは泣いている」。

ともあれ勝利の喜びに没るのは選手のみならず、会場の観衆、ペルー全国民。前方の席に座っていた文部大臣は、勝利が決すると競馬馬の如く貴賓席の前方の壁を乗り越え、さっそうと選手の手の上へ駆け寄って行った。この文部大臣もペルー人の典型である。日本の文部大臣だとひんしゆくをかって、次の日からのこのこと仕事に出て行けない？

対戦が終了し、二位が決定したのが夜九時だった。それまで人っ子一人も市街には見られずテレビに釘づけであったのが、トイレットペーパーを車の窓からたなびかし、ラッパを鳴らしながら、リマ全域を大衆の人と車と潮歩することとなった。

いまさらながら、こういう光景を一瞥できたことをうれしく思うし、日本チームが勝っていたならば、こうした経験もできなかったであろうと、何やらありがたくも思うのである。

車あれこれ

リマの各通りには多種の車が往来している。当然日本では姿を消すか骨董の部類に属すべき、三、四十年前のオンボロ自動車

車が身なり構わず走り抜けている。だから、エンストした光景は珍しくもない。これに反し、外国から輸入された高級車も入り混り、通りを流れている。日本的に言うなら、ちょうど戦時中、戦後の時代と現代が同居しているということだ。オンボロ車と輸入車がペルー社会をよく表しているように思える。貧富の差の大きいこと、はつきりとした階層社会などである。しかし、多くの人は物をほんとうに大切に扱っている。

ペルーの全車両台数のうち最も多くを占めるのは、やはり日本車で、全体の七〇%が見慣れたわが国のもの。市街には日本の各メーカーの自動車も見つける。現地生産工場も日本から二社進出している。車の価格は日本の同型車の二倍。なぜなら、取得税が車の価格と同じ分かけられるからである。

車検は年一回。登録の順番で月ごとに行われる。日本で言えば、今月は「岡野は」の車、という方式である。ただし、車検の内容はいたって簡単。方向指示器と前方のライトぐらいの確認でOK。それに経費は日本由にして約五百円ぐらいで済む。ひどいものになると車検場の係官に袖の下を渡し、この単純な検査もなしに、ステッカーだけをもらい、列の道からそそくさ出口へと抜ける、ちゃっかり屋さんもある。車検場が長蛇の列となっており、早く引き上げようとしているのだ。

ところで外国の道路はどこでもそうであるように、ペルーも右側通行だ。左側通行に慣れきって海外生活に踏み込んでしま

った者には、この伝換は難題となって降りかかってくる。二週間は勘をつけるのにかかり、ワイバー、ウィンカーレバーの操作間違いは一か月ほど続く。ワイバー、ウィンカーは日本の取り付け方と逆なわけだ。リマのドライバーはおおまかて（南米はいずれも同じ）遠慮会釈なく割り込んでくるし、僧号無視の輩も後を断たない。

ただ深夜、赤僧号でも止るなど言われる。止まるとピストル強盗に脅かされることがあるからだ。事故や盗難が多く、一年契約の車の保険金額は十二万円にも及ぶ。



アマゾンの現住民

敵さん、駐車中の車のタイヤ、ミラー、窓ガラスを割ってステレオ等を盗む。泥棒市場で売れるのだ。あ
る人が左側のホイールキャップを市
内で盗まれた。そ
こでこの市場に行
き、同型のものを探し当て、買って
帰ったところ、今



度には泥棒市場に駐車中に右側を盗まれていた、という話もある
ほどである。

アマゾンの水上生活者

文化の違い・習慣の違い

―撫でると抓る

ジャカルタ日本人学校（インドネシア）

岡山市立津島小学校 小坂田 孟

国がかわれば風俗・習慣が違うのは当りまえのことであるが、初めて外国へ住むというのは、この習慣の違いにとまどつて、ことが多い。

私も家族四人でインドネシアへ初めて赴任し、ここでの生活に慣れるまでに何かとショックを受けました。

小学校四年と六年の娘を同伴し、自分の借家を見つけるまではホテル暮らしが続くわけです。先輩の日本人学校の先生がホテルに来てわれわれの希望を聞き、各自の収入とか趣味とかの合う家を見つけてくれるのですが、かなりの日数がかかります。この間は、学校のミニバスでホテルから学校へ出勤ということになります。

このホテルレジデントには、日本食の「弁慶」というレストランがあり、狩物姿のインドネシア人のウエイトレスがたくさん働いています。「うとん」とか「おすし」、「うなぎ」とたいていのものがあります。

先輩の先生方の奥さんが、いろいろとお弁当を作ってください

ったり、少し身体の具合の悪い者がいると、「おかゆ」に梅干を持って来てくださったりと差し入れをしてくださるのですが、初めのうちは、日本食のレストランにお世話になることが多いのです。

私も家族を連れて、このレストランによく行ったのですが、この時にレストランのウエイトレスが、二人の娘の頬をつねっては「マニス」「マニス」というのです。二人の娘は気持ち悪がって、「何で人の顔にさわるばあさんでえ。」「もう、気持ち悪いし。」と言っし、私も何であんなことをするんかな



ジャカルタ日本人学校全景

あと、初めは「マニス」(かわいい)というインドネシア語もよくわからないのでふしぎに思っていました。日本にも「かわいいあの娘」という歌で知られている「ノナ・マニス」の「マニス」なんだと先輩の先生方が教えてくれて、(か

わいい」という日本語が、「マニス」、「マーニス」というのか、というのはわかったのですが、娘の頬とかあこの方をよんで、「マニス」というのがよくわかりませんでした。

「どうも、ここのレストランのウエイトレスは気持ちがいいですね。」と先輩の二年目・三年目の先生方に聞くと、にやにやしている。そして、ここの習慣で、子どものかわいいというのを表現するのに、あごや頬を撫でるんですよといわれてやっとなめました。これも頭では、こは外国だから、日本とは習慣が違うのは当たり前なあと分かっているのですが、娘の頬へ触られたりすると、何となくに気持ちのいいものではありません。

これは、ちょうど日本では、小さい子どもに接し、初めての子どもさんなんかですと、すぐに頭を撫でて、「まあ、かわいい子どもさんですね。」とやりますが、ちょうどあれと同じですね。

ところが、この頭を撫でるというのがインドネシアでは、これを一番嫌うのです。日本では、「かわいい、かわいい。きつと勉強もよくして元気な子どもですね。」と、いわんばかりに頭を撫でますが、インドネシアでは、頭を撫でることと、左手で物を人に差し出したりはいけません、ということを最初に注意されました。

二二、インドネシアは、宗教がイスラム教なのです。この

イスラム教では、頭に聖なる神が宿っているので、むやみに、勝手に人の頭を撫でるのは神の冒瀆である、といって嫌うのです。イスラム教も、あまり熱心でない人もいるのですが、多くの人が熱心な信者のようです。一日のうち五回、メッカへ向って礼拝をするということも当然あちこちで行なわれています。アルコール類も口にしないという人も多いです、例のレバノンという、ベトナム戦争のときに、「レバラス休戦」というのがありましたが、あのように戦さをしていても、この断食月であまり食事をとらない月は、ちょっと休戦しようというくらい、宗教が力を持っています。インドネシアでも、この断食月になると、生体力が落ちるといいますし、日本人学校でも五十数名のボーイさんを使っていました。やはり断食月になると、午後になると能力が落ちてくるし、運転手さんなんか、この行（ぎょう）をしていると乗っている方も、事故を起しはしないかと心配です。また、断食をしていなくても、この月の間はたばこを吸うのを止めるとか、いろいろな形で参加しているようです。

このように、宗教の力も偉大ですから、これを勝手に、われわれ異国人が「オー、マニス、マニス。」（この子はかわいいぞよ）と頭の上をやると、インドネシア人になれば「もう気持ち悪い、止めてくれ。」ということになるのであろう。

このように、ちょっとした何でもないことが、習慣の違いか



道路もバナナでいっぱい

ら、大きなショックになります。

しかし、これも二、三か月すれば若い者ほど、特に子どもは、すぐになれてくるようです。顔つきから立居振舞まで、だんだんとインドネシア人のようになり、はじめは、雨

が少し降り出すと、「わあ、雨じゃあ。」と走り出していたのが、いつの間にか、雨になっても走り出しもせず、「あゝスクールか、気持ちいいわあ、そのうち止むわ。」とのんびり歩くようになるのです。

こうして、だんだんとその土地になれてくるのでしようね。

第一回国際フィルム祭を開いて

北京日本人学校（中華人民共和国）
岡山市立加茂小学校 黒田忠男

三年間も外国生活をしたのに、お互いに各国の情報を交換し合う機会がないのは残念だ、みんなが持ち帰った世界の国々の映像を見せ合って話ができたら楽しいだろうし有意義なことではなからうかと何度か提案したが、中心になって世話をする者がいないと話は進まない。今年こそはと、帰国者歓迎総会の席で呼びかけ賛同を得たので、準備に取りかかった。

世界の国々の映像情報を一ヶ所に集めて見るというところが、これは、われわれのグループでないといけない。今後、国際理解教育研究会の活動として定着させることができれば、反響も大きいだろうと思う。だが、会員の皆さんが本当にその気になって協力してもらえたらどうか確信がないので、先ず第一回は仲間うちの小さい集りでもよいから何とか成功させたいと願った。

十月になって、予定していた商工会議所には、暗室がないことがわかり、あわてて別の会場探しを始めて、暗室設備があり会場費が安い場所として高松公民館を確保することができた。早速、案内状を全会員と新聞社、教育委員会にも送った。

しかし、返事はあまり集まらなかった。せめて、岡山市内の在住者だけは、電話連絡で参加の有無を尋ね、どうにか十名程度のフィルム提供者を確保することができ、何とか見通しがついた。案内状を往復はがきにしなかったことが返事の少なかった原因だと思われた。

映像を見る会なので機械の準備もしなければならぬ。我が家のビデオセットとテレビのテストをし、ヘッドがよれていたのので、クリーニングテープを買ってきて掃除もした。スライド映写機も直前になって頼んだ。プログラムを印刷した後から参加してくれる人が増えたが、これは印刷しなおすひまがなかった。当日は湯茶と茶菓子の用意をして会場へ出かけた。

定刻にはほぼ全員がそろい、家族づれで参加した会員もいて全部で十四名と、にぎやかに、主催者として嬉しかった。

『当日のプログラム』

・あいさつ

・フィルム鑑賞

① ドイツあれこれ

② おどきの国ルーマニア

③ 緑のベナン

④ 北京・ハルビン・承德

⑤ ウィーン的生活

⑥ ワルシャワの風景

三宅正勝

友保正彦

安部町江

黒田忠男

大山裕一

村瀬憲正



高校公民館にて 60. 11. 10.

風景は人間の犯した罪の恐怖をひし

きなくて残念だが、

トを書くことがで

てくわしいレポー

や感想がとび出し、

持った。解説が即

興的でおもしろく

見た側からも骨間

なごやかな会であ

った。各々につい

てくわしいレポー

トを書くことがで

⑦ ジャカルタの街

⑧ スリランカの古都

⑨ モスクワ

・ 話し合い

・ 閉会のあいさつ

一人平均十分から十五分に編集して持ち寄ったフィルムは、世界各地の様子を見事に写し取ったものばかりで、二時間にわたって見る人をあかせなかった。これだけの内容豊富な映像の展示はめつたに見られないもので、参加者全員が見たえがあ

小坂田 孟

沼本 泰知

小澤 定子

ひしと伝えていたし、ジャカルタの物売りたちの姿はユーモラスだった。スリランカの仏教遺跡は古い文明を物語っていた。共産圏と自由主義圏の比較もよくわかるし、アジアとヨーロッパの生活様式の差もくらべてみるとおもしろかった。

世界を見るということは、世界を考えることの第一のステップであり、私たち国際理解教育研究会の今後の活動を展望するよい機会になる集いであったと思う。今後、この催しが、回を重ねることさらに内容を深めながら定着していくことを期待したい。今回参加した会員にも、また未公開のフィルムは多いし、次々と帰国してくる新会員も最新フィルムを持ち帰ることだから資料はふんだんにある。いろいろと多忙で参加できなかった会員や、遠方からでは出かけにくい会員も多かったと思うが、岡山市以外の地域でも会員が増加するにつれて、国際フィルム映写会を開いていけるようになってほしいと思う。また、せっかくの意義ある会だから、広く一般の人々にも見ていただくような方向で宣伝などにも工夫をこらしていくことが必要だろう。



ベントータ・ビーチ

ホンダイ・スリランカ

沼本 泰知

私は、昭和五五年四月から五八年三月までの三年間、スリランカのコロンボ日本人学校に派遣教員として勤務した。

スリランカは印度の南端に位置する共和制の国で、「スリ」は「輝く」、「ランカ」は「ランド」がなまったものと言われ、その名の通り、すばらしい空と海と緑の国である。

日本に知られているスリランカは、昔セイロン島と呼ばれていた、セイロン紅茶の産地、最近では、日本に眼球（角膜）を提供してく

れる国というくらいのことだが、実は、太平洋戦争の後、一九五一年九月、サンフランシスコ対日講和会議の席で、ジャヤワルデナ現大統領（当時「外務大臣」）がアジアの国々を代表して行なった演説「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む。」によって、アジア各国が日本に対する賠償を放棄してくれ、今日の日本の発展があると言え言われている。

また、日本航空が海外長期滞在者を対象にアンケート調査したところによると、「もう一度住んでみたい」という国のトップはスリランカであった。では、一体スリランカのどこにそんな魅力があるのだろうか。

1、スリランカの概要

(1)面積…六五、六〇〇㎢、北海道の約七五%

(2)地形…最高峰ピドゥルタラガラ…二、五二七mが中央部にそびえているが雪は降らない。北東部へマハベリ川…三三三㎞が流れている。

(3)気候…北東モンスーン…十月～一月と南西モンスーン…五月～七月があり、首都コロンボは北緯六・九度にあるため、一年を通じて二四～三一度で、四月五日～九月五日には太陽は北よりを通り、南側にかげができる。

また、中部高原のヌワラエリアは七～二二度で高温多湿のため紅茶の栽培に適し、見わたすかぎりの紅茶畑



ベイラ湖畔(コロンボ市内)

になっている。

(4)人口：一六四〇万前後とされている。コロンボ市は六二万余

名。平均余命は男〇六四、二才(日本七三才)、女〇

六七、一才(日本七八、三才)。

(5)民族：シンハリ人 〇七二%

タミール人 〇一一%

インドタミール人 〇九%

ムーア人・その他 〇八%

(6)宗教：仏教徒 〇六七%

ヒンズー教徒

〇一八%

キリスト教徒

〇八%

イスラム教徒

〇七%

(7)身分：シンハリ社会 〇ゴビ

ガマを筆頭に二五階

級(大分類)

タミール社会 〇ブ

ラーミンを筆頭に一

七階級(同各)

(8)日本から：七〇〇〇名

〇英国航空(B・A) 〇時三〇分着、所要時間 〇一時間三〇分

〇エア・ランカ 〇週二便、直行、所要時間 〇八時間

時間

〇コリア・エアライン 〇一時二〇分着 〇シン

ガポール航空 〇二時三〇分・一時三〇分着

〇インドエア・エアライン 〇二時二〇分着

(9)通貨：スリランカ・ルピー

五五年一月 一Rs 〇三六円

五八年三月 一Rs 〇九円

〇風土病：マラリア・コレラ・デング熱(高熱が続くが死亡率

はゼロ)・破傷風・フィリリア(潜伏期が二三年)

等

〇病害虫：蚊・はえ・からす・あり・毒へび・ワニ等

〇治安：コロンボ市内、一夜に三千件のこそどろ。戒厳令、夜

間外出禁止令等が年間数回発令される。

2、ホンダイ・スリランカ

「ホンダイ」というのは、「結構」とか「OK」とか「すばら

しい」という意味で、「デカイ・ホンダイ」という合言葉がある。

「デカイ」は一、二、三の「二」、つまり「二つで十分」とか「二

つで満足、それ以上は欲であったり、せいたくだ」というように使



ネゴンボの漁港（インド洋）



宝石掘りの現場（ラトナブラの田んぼの中）



日本語看板の宝石店

われる。また「ホンダイ、ホンダイ」は、「いいから気にするな」といった軽い意味にも用いられる。日本人が「もう一度住んでみたい」というスリランカは、次のような理由ではないかと思われます。

(1)美しい自然：スリランカの西海岸は、首都コロンボを中心に早くから開け、あくまでも澄みきった空と海に、ココナッツの木がシルエットとなり、どこまでも続く遠浅の砂浜は、人々の心をとらえて放さない。

また、コロンボの北ネゴンボの漁港には、異国情緒あふれる大小の漁船が行きかい時のたつのを忘れてしまう。ここ

き、果物、野菜が豊富でおいしく、凍死、餓死のおそれは全くない。加えて年二回のモンスーンがあり適当なスクールの雨は万物をはぐくみ飲料水や電気にも事欠かない。

(3)宝石の産地：世界の女性の身を飾る宝石の産地で、特に、アレキサンドライト・スターサファイア・スタールビー等は高品質、その他、キャッツアイ・ジルコン・ガーネット・アクアマリン・トルマリン・アメジスト・トパーズ・ムーンストーンなど、ダイヤモンドとヒスイ以外は殆んど産出するといわれている。最近では、日本からの「宝石ツアー」も多く、日

は国際空港にも近く、ペガサスリーフホテルをはじめ数多くのリゾートホテルでは、世界各国の人々が国境を越えてはだかで語り合う平和な光景が印象的である。

また、中央高原地帯ーヌワラエリアに延々と続く世界一の紅茶畑も、スリランカならではの景観と言える。

(2)気候・風土に恵まれた国：平均気温二七℃といわれているが、気温の年変化もわずか七度くらいで、日変化にいたっては一℃前後で、はだかではだが最も気持ちよい生活がで

スリランカ

滞在国〇年

スリランカは、南緯の島国で、人口は約1,000万人、面積は65,000平方キロメートル、首都はコロンボである。



スリランカは、南緯の島国で、人口は約1,000万人、面積は65,000平方キロメートル、首都はコロンボである。スリランカは、南緯の島国で、人口は約1,000万人、面積は65,000平方キロメートル、首都はコロンボである。

レジデント・ゲスト・スキーム (朝日東京版) 榎本氏御夫妻

本語の看板も散見できるようにってきた。

(4)世界一のジャガイモ：世界一といわれるドイツの種いもを毎年輸入して高原地帯で栽培しているが、これがドイツをしのぐ世界一の味とされ、ジャガイモを使った料理のバリエーションも多く、われわれの舌を楽しませてくれる。

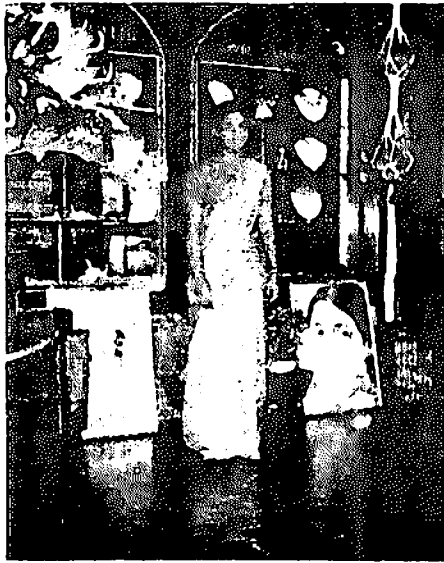
(5)熱心な仏教徒：仏教発祥の地とされ、毎月満月の日は国民の祝日で、お盆に花を盛り、純白の式服をまとった若男女がお寺へ続く。特に五月の満月ウェサック、八月のペラヘラ祭りは世界的に有名な火の祭典で国中がわかえる。殺生を忌みきらう教典のため、蚊一匹も殺さないし、殺人事件は世界一少ないと言われている。

(6)医療は無料：発展途上国らしからぬ社会保障制度を持ち、中央病院、レントゲンセンター、保健所も完備し、各町には診療所が設置され、外国人も無料で治療を受けられる。なお、生活扶助

や労基法、失業保険制度も先進国並に整っている上に義務教育は無償である。

(7)レジデント・ゲスト・スキーム(外国人長期滞在優遇制度) 現大統領が外貨保有の方策として打ち出したもので、現在、日本人は写真家として榎本正吉氏がこの優遇を受けておられ、大統領とも親交がある。

ただ、この制度は誰にでも認められるわけではなく、医師・小説家・音楽家・写真家などの芸術家で、スリランカの世界に紹介する能力のある著名な人となっていて、金さえ出せば許可されるとは限らない。



サリー (正装した貴婦人)

3、変った風俗や習慣

(1) サロンとサリー：以前は生活着であったが、活動性・機能性の面から特にサリーはおしゃれ着とか民族衣裳としての感覚が強くなって、仕事着としては、スチューワース、宝石店の店員ぐらいいしか見られなくなった。それにしても縫目のない一枚布の衣服なんて、すばらしい生活の知恵だと思いませんか。

(2) 国技はクリケット：これは野球の前身だと言われ、ピッチャーがランニングシュートする球を、バッターは羽子板状のバットで打つ。一試合するのに三日かかる。今では、イギリス・インド・アフガニスタン・パキスタン・バングラディシュ・スリランカぐらいいしか行われていないようである。しかし、国際試合などは外野スタンドも満員で、国民すべてがテレビの前に釘づけの状態になる。

日本人学校にも一流選手を講師に招き約一学期にわたって指導を受けたが、児童・生徒は一向に興味を示さなかった。

(3) 境界線

○門に錠がかかっているければ行商でも押し売りでも堂々と入ってきて執ようにねげる。また、せまい道でUターンできないような場合、錠がかかっている邸があれば、自家用車もバスも気兼ねなく通り抜ける。

○私が家を借りた時、大きな鉄製の錠が五五波たされた。各室のドアはもちろん、机の引出しから鏡台の引出しまで全部錠があり、施錠がなければ誰が持ち出してもよいという習慣があり、慣れるまではうっかりミスが鏡出しせうけん、たばこ、事務用品、化粧品等が多数盗難に合った。一度失敗すると今度は厳重に施錠はするが、外出先で錠を紛失してまた困ったという経験は、必ずしも日本人だけではないらしい。

○冠婚葬祭をはじめ、訪問、パーティー、挨拶、お礼等はすべて花で行われる。毎月のボヤデー（満月の日）のお寺参りもテンブルフラワーを主に、お供えは花だけである。また、大使夫人からの要請で、縁あって大統領の弟さんの奥さんに当たる方に一年あまり鳥城邸を教えたが、いつも花を持参された。

日本では、冠婚葬祭も形骸化し、物から金へと変遷して、お金でもって交際の深さを評価するような形となり、「失礼ながら、社会福祉の為に……」なんて礼状をもらうと味気ない感じさえして来る。

○扉から出ているものはみんなのもの、バナナ・パイア・マンゴー・マンゴスチン・キングコナツツなどの果物、ボーガンミラー・アラリアマルなどの花は、扉からのぞいていたら誰が取ってもよいというルールがある。だから食糧がなくて餓死することもないし、お参りやお礼の為のお花がなくて困



半年でこんなになったマンゴー



アソーカ・マル（マル＝花）

る心配もない。もっとも、気象条件に恵まれているので、ちょっと一枝さしておけばすぐに実るし、大木に育つ。一年生がアサガオのたねまきをしたら、三日目に花がさき、四日目にたねができてしまった。私のうちに生えたマンゴーのこぼれ種が、半年目には二階の屋根より高くなり、たわわに実をつけた。十一月三十日に、日本から



一週間のヘチマ



タウン・ホール（市役所）



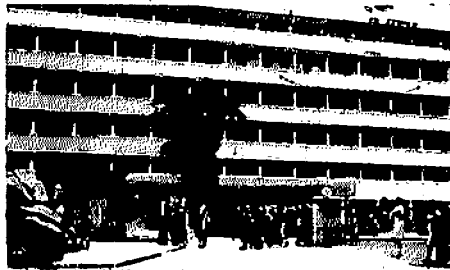
フォート地区（官庁・ホテル街）

送られて来たヘチマのたねを学校の職員室の西側にまいたところ、一週間でこれまた二階の屋根より高くなった。じっと見ているとつるがのびていくのが目に見えるのには驚いた。日本のオクラもみるみる成育してジャングルのように生い繁り、三〇〜四〇cmの実を無数につけた。

(4) 生きているイギリス：一七九六年のイギリス優攻以来百五十年続いた植民地時代のなごりは今なお各所に見られる。ケンブリッジテラス・ロンドンアベニュー・シナモンガーデン・ビクトリアパーク・ゴールロード・タウンホールなどの呼び名、高校教育修了時に受けるアドバンスレベルの國家試験（大学共通一次試験）はイギリスの大学と共通になっている。イギリスの大学を卒業しないと医師・弁護士・政治家・経営者にはなれない。一九八二年、日本が最新の電話交換機を寄



国際電々公社（すべて日本の寄贈）



国鉄（超狭軌から広軌まである）



わがドライバー君（高校生・27才）

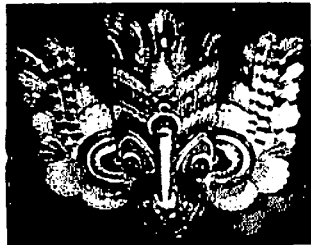


セント・メリー・スクール（窓枠はない）

贈し、日本人は「これで即時通話になる」と喜んだが、相変わらず三時間半待たされるので調べてみると、交換機が買収されて、殆んどすべての回線はロンドンの競馬場につながれていたという。車はわが身の一部、健康診断は自分で責任をもてというのであろうか車体検査は一切ない。鉄道の踏切等手は、列車の遅れには関係なく遮断機を降ろす。そして、手で誘導してくれる一軒行けと。運転手は決して運転以外の仕事はしないし、現場監督は監督以外の仕事は決してしない。



ジャヤ・ワルデナ大統領 (80才)



悪魔よけの面 (木彫)



おれに見られる3種類の国幣(上=10ルピー・下=5ルピー)

(00)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
小学校	1	2	3	4	5																												
中学校	6	7	8	9																													
普通高校	1	2																															
技術学校	1	2	3	4																													
大学	1	2	3																														
教員養成	1	2	3																														
職員数																139,297																	
生徒数																3,135,716																	
その他	2	8	9																														
合計																9,626																	

(2) 教育制度

一 学 校 数

学 校	3 8 3 4
中 学 校	3 9 9 4
高 校	1 5 0 9
そ の 他	2 8 9
合 計	9 6 2 6

教 員 数	139,297
生 徒 数	3,135,716
出 版 日	9 月

5、日本人の生活

の説明、ラジオ・テレビのニュース等すべて三通りのことばで解説される。あまりの複雑さにたまりかねた政府は八三年度から敵国語であった英語を国語から外すという宣言をした。最も困ったのは高校以上の学校へ通わせていた外国人で、どうすることもできず、次々帰国して行った。また、暑さと関係ないでもないが、週休二日制の上、満月はもちろん、キリスト教・イスラム教・ヒンズー教の祭礼はすべて国民の休日となり、独立記念日やナショナルヒーローズデーなどもあり、雨天を休むので、一九八二年度の授業日数は一五五日であった。しかし、教室正面には国旗と大統領の写真が飾られ、国歌を歌って一日の学校生活が始まる点は、日本人も見習うべきだと考える。学校を分類すると、男女別校・民族別校となり、さらに仏教・ヒンズー教・キリスト教・イスラム教の寺院立の学校があり、これらはそれぞれに日曜学校を持っている。

(1) 日本人会：個人の意志で入会する日本人会員は約百五十名、大使を名誉会長にいただき、年二回の総会をはじめ、運動会、ソフトボール大会、バレーボール大会、子供お楽しみ会、野外パーティー、日本人墓地参拝、ジャイカの集い、マージャン大会、幼児の集い、つり大会、国際クリスマスバザーなど

の催し物をはじめ、現地医師一覧表、現地との対応、国際情勢への対応などをしている。

職種は商社、メーカー、建設、JICA（技術援助）、ゼトロ（国際貿易振興会）、大使館、日本人学校などであるが、短期滞在などを理由に入会していない者も約百五十人いる。また、現地人と結婚して国籍を移している日本女性が十八人いる。

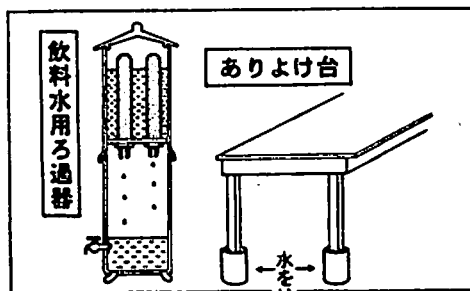
②日本人の生活：日本人は主として三、五、七丁目に居を構え、女中や運転手をやといこの国の人たちにとってはうらやまし



仏教寺院の日曜学校（ペイラ湖畔）



日本人現地参拝（手前から大使御夫妻・日本人会長）



ろ過器とありよけ



船団のころきたスーパーストア

い生活をしている。しかし、その実、私達が赴任した当初は、日本食としては味の素と醸水のとうふ（半年間の保証付）しか売られてなかった。米といっても質的に全く日本人の口に合わないし、現地食はカレーだけ！それも唐ガラスが最もソフトなスパイスで、より以上強烈なのが十七種類で、当初は口にすることさえできず、航空便で3kg単位で内地から米を送らせた。船便にすると港の倉庫でありにやられてしまうので……

・ありといえは、ほんの数分間食料を放置すると、まっ黒に

たかっている。内地から届いたダンボールを開くとインスタントラーメンの袋の中はまっ黒になっている。あり撃退と飲料水の確保は、ここに住むかぎり片時も頭から放れない。水は、ろ過器にかけてものを煮沸して使う。女中の仕事の最も大切な内容になっているが、衛生観念に乏しい彼女らに任せとおくと、とんでもないことになりかねない。ぞうきんとぶきんの区別は最後まで徹底しなかった。

・衣食足って礼節を知るとい方が、赴任当時、先輩の日本人が牛肉の良質のものをプレゼントしてくださった。われわれが、知るかぎりでは、牛肉はゴムをかむよう歯がたたないのので、嬉しくなって、どこに行けば手に入るのか尋ねると、答えは、「買って来てあげます」なのである。買って来てもらっては、めいわくをかけるし、気の毒だからといくら尋ねても「いや、買って来てあげます」なのである。つまり、需要と供給のアンバランスのところでは、知られると物が足りなくなつて教えた方も買えなくなるのである。このルールがわかるとるまでに半年かかった。時折、遠洋漁業のまぐろ船などが寄港し、日本食や日本たばこを売ったのが闇市に出ることがあったり、カラチからサンバ米が入ることがあるのを求めてさまよう様は、さながら餓鬼道であるが、やはり、食うことは生きることの基本であると痛感した。帰国の直前にシンガポールからスーパーマーケットが進出して来て、オーストラリア

米・薄力粉・イースト・グリーンピース・冷凍食品などが散見できるようになったが、これとて入荷と同時に売り切れる始末で、明けても暮れても食べることが頭から放れないと、われながら人相まで変わってくるような気がした。また、日本人家庭なら、どこの中にもあるのが、味付のり・玉露・煎茶・ふりかけ・インスタントラーメンと決っている。日本から親しい人たちが送ってくれるのであるが、現地で生活してみると、麦茶や番茶、漬物やみそが最もほしいのだが……

③日本人学校：一般に海外日本人の教育機関は、日本人学校と日本語補習校に分れ、日本人学校は、その国の認可を取っている場合と、大使館付属という形でもぐり営業に分れる。香港・バンコク・シンガポール・ジャカル・クワラルンプールなどの大規模校を除いて殆んどもぐり営業である。運営母体は、海外に進出している大手の商社・メーカーの出資による海外子女教育振興財団で、現地では、学校運営委員会（または理事會）が置かれ、文部省学習指導要領に則つた教育が行われているが、問題点も山積している。

④流動的な社会 日本人学校の派遣教員は、任期三年と決められている。児童生徒の入退は毎月ない月はない。わずか四名足らずの子供達がこの網子だから落ち着かない。時には男子一人、時には女子一人になったこともあり、四十九人になって身動きできないから広い校舎（民家を借りている）に移ろ



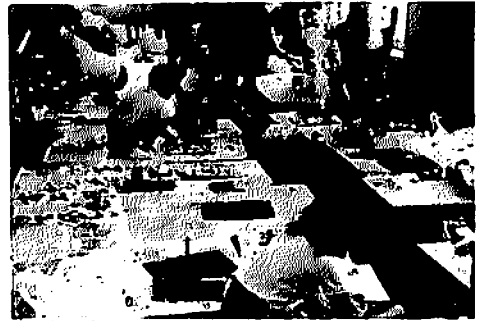
日本人学校（移転5回目）

うという話しが持ち上がったと思うと急に十九人に落ち込んで、家賃がもつたないから小さい家に引越そうといったりする。

②特色を生かして週三時間水泳の時間を取り、オリンピックの選手を講師に招いて指導を受けている。一年中泳ぐんだから進歩も著しく、帰国するとたいいてい全校優勝しましたという嬉しい便りをくれる。英会話もイギリスの大学を出た現地女性を講師にお願いして初級・上級と分け、能力別指導を実施し実績をあげている。



教職員（前列右＝用務員兄弟・後列左2＝筆者）



谷初大会

③元気な子供達 朝大きなまほうびんに冷たい紅茶をいっぱい入れたのを大事そうにかかえてスクールバスを降りて来る子供達は、午前中にこれを開けてしまう。昼前に女中が弁当と共に同じ大きさのまほうびんを持参する。暑くても内地と同じように、ソフトにバスケットにすもうに我を忘れて汗を流す。

④使える教科書 赴任早々、果たして日本の教科書がそのまま使えるのか、また学習指導要領の目標はすべて指導できるのか全学年全教科にわたって調査した。その結果、具象的には



朝礼風景



女子教職員（昭和57年度）

太陽の動きなどで南側にかげができてたり、北極星が見えなく
て逆に南十字星が見えたり、一年中はたるが光ったりするが、
学習指導要領にうたわれている指導目標が消化できないもの
はほとんどなかった。わずかに給食のおばさんの苦勞だとか、
郷土の社会科などがあがって来た。そこで、三年間に社会科
副統本「わたしたちのコロンボ」を刊行しようということに
なり、分担を決めて調査編集を進めた。そして三年目、曲が
りなりにも一応の完成を見た。しかし、小規模の乏しい予算
では本印刷にかける費用がなく、ファックスー輪転機で製本
し授業を通してなお修正し、任期満了となった。

⑧親の意識 「せっかく外国に来たのだから、学力や受験のこ
とはさておき、存分の海外体験をさせてやりたい」という現

地指向型と、「いずれ日本へ帰って受験戦争を勝ち抜かねば
ならない子供なんだから学力第一主義で」という内地指向型
の両極が角をつき合わせて、いつまでたっても平行線！ 教
員の立場からは、そのいずれであってもならないし、その両
方が必要であると説得するのだが……

6、海外勤務をふり返って

(1) 赴任して間もなく、妻の父親は他界した。あんなに元気に送り
出してくれた私の母は、「お前は、どこへ行ってた？」と対
話できない人となっていた。職務上の三年間の遅れ、荒れに
荒れている学校、公共料金をはじめ物価の高騰など、まさに浦
島太郎であった。

それにも増して、気候の変化に順応できず、出発の日、カト
ナヤケ空港の温度計は三二℃を指していたが、十一時半成田
空港の温度計は一℃を示していた。以来、急に冷凍庫に入れら
れたような体調の狂いは容易にもとにもとらない。夏が来るの
を待ちわびたが、三二℃を越えると、今度は意識がもうろうと
して夢遊病者のようになる。つまり、一定気温（一年中、昼も
夜も三〇～三二℃）の場所に居たために体温の調節機能が鈍っ
たのだとわかった。帰国した先輩を訪ねて相談したが、結論は、
三年行ったら三年経たないともとに帰らない。薬を飲んで注
射をしても効果はないということらしい。

(2) 岡目八目というが、日本の複雑にからみ合った人間関係の中で、本音の人と立前の人とはつきりわかった。深く反省もしたし、本気ではらもたてたが、所詮判断力不足を痛感させられた。

(3) 昭和四四年四月、私は地図を片手に、川上郡成羽町立吹屋小学校へ赴任した。そして、三年間の勤務を終えてその記録「峠のあしあと」の巻頭に「吹屋への道、遠い道、吹屋への道、けわしい道」と書いている。確かにあのとき、吹屋への単身赴任は、私にとって遠い道、けわしい道であった。ところがあれから十一年を経て、夢想だになかった海外勤務の御命令が待ち受けていようとは！ 日本を去る七千四の彼方―北緯六・九度の常夏の国、今から考えれば吹屋は岡山県の中ほどにあり、歩いてでも帰れるところにある。赴任した時、吹小もコロンポ日本人学校も三八名の在籍で複式授業（中学部は複々式）、私は中学部を担任し、吹屋で体験した直接指導と間接指導、大当りと小当りを懸命に先生方に指導しながら、週当り一六時間の授業を続けた。また、昭和四六年二月二〇日、最高最低温度計はマイナス一七・五度をさしている。その温度計はコロンポで昭和五年五月二〇日に四三・五度を指していた。（船便を解いて取り出したときには四七・五度を指していた）都合私のからだは六一度の温度差を体験したことになる。

(4) 教頭の置いてもらえない小規模校で、校長職の経験のない身―しかも一団に一枚しかない学校では相談する人もいない。そんな

な思案に余ったとき、いつも思い出されるのは吹屋小時代のことであった。片やへき地の過疎の学校、片や発展する日本の最前線の学校―そこに奇しくも同じ条件が存在したり、同じ悩みがあることに一大発見をしたような気分が浸ったりもした。ただ大きく違うのは、海外日本人学校は一過性の宿命を持ち、ふり返る人のいない学校で、母校とか愛校心といったものから程遠い、いわば宇宙を旅する時のスペースシャトルにも似た存在である。したがって、卒業生が記念樹を植えたり、思い出の品を残すようなことはあり得ない。

(5) 思い出に残るのは、一九八一年三月三日皇太子御夫妻をお迎えしたとき、美智子妃殿下よりお叱りを受けたこと―「なぜもっと積極的に現地校と交歓活動をなさらないのですか。私が十年前にパンコク日本人学校を訪問した時には、スポーツや音楽や写生大会に積極的に取り組んでおられました」と。私達は殿下御来訪の情報を得るや直ちに今までに訪問を受けた該当校に訪問・接見の様子はもちろん、現地との対応についての回答を求め、本校の準備に入った。パンコク日本人学校は、世界で初めて設置された日本人学校で、タイ政府は今もって最も日本人学校援助に理解と協力を示し、文部省は予算まで組んでくれていると聞く。一方スリランカは、民族の対立、宗教的争い、労使の不調和、それに衛生状態の悪さなど幾多の悪条件に阻まれて、一歩も前進できない実情は遂に申し上げられなかった。世界に

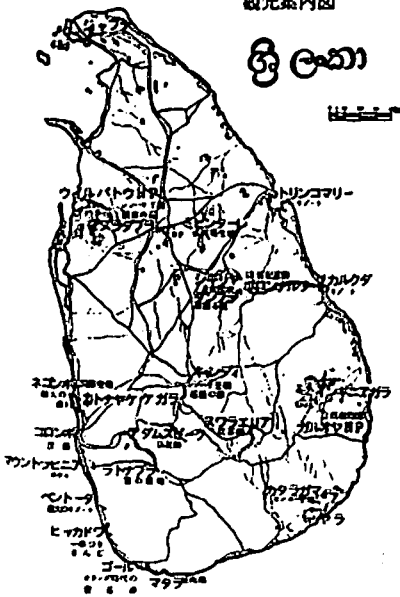
タイと同じ国・バンコク日本人学校と同じ学校は二つとないことを勉強されたいと願うのみである。

(6)最初の女中さんは、半年ばかり勤めて収入のよい中近東へ出稼ぎに行ってしまった、次に来た十七才の少女は、スウェーデン大使館員のうちに勤めていたが、任期満了で帰国され、私のうちへやって来た。話しているうちに、四年間勤めているあいだ、洋装学校へ通わせてもらったし、帰国の時にミシンをプレゼントされたという。日本人は、みな使っているうちは大事にしてあげるが、こんなに手に職をつけたら教育したりすることはない。いわば使い捨てにする。私は深く感銘を受けた。この子とは、ほんのわずかの期間しか縁がなかったが、次に来た娘さんには、私達が帰国するまで日本語を教えた。別れるころには、日本語で会話ができ、小学校二年生程度の読み書きができるようになった。

(7)現地の青年S君と友達になったが、ある日、彼が「プライベートルのスイミングクラブに古美術品の売り出し案内があるので行ってみないか」という。出て来たドイツ人が「私は、勤務を終えて帰国することになったので、滞在中に集めた品々を売る」という。日本人は、家宝にすると誓って容赦なくその国の国宝級の物まで金にあかせて持ち帰ると聞く。心すべきことだと思っ

た。
(8)今の日本を外から眺めると、やっぱりアメリカの風国と言わ

図内案内光観



れてもしかたがない。今や洋の東西のはさまにいて断じて西でもない東でもない日本に、世界の国々は期待をかけているように思えてならない。また、白と黒、発展途上国と先進国の間にあって、そのどちらでもない日本を望む世界の声が聞こえて来る。私はそこにこそ日本の新世紀における他国にはなし得ない役割があり、また発展があるのではないかと思う。

この三年間に教えきれないほどの貴重な体験をした反面、かけがえのないものを失ったような気もする。また、ドラマになるような私の教職の流転は、これから先、一体どんなことが待ち受けているのだろうかと興味半分、こわさ半分というのが本音である。

(岡山市立平福小学校長)

現地だより

フエノスアイレス日本人学校
倉敷市立琴浦中学校 佐川慶三

早いもので、フエノスアイレスで生活を始めてから二ヶ月が過ぎました。

こちらは、秋も深まり街路には落ち葉が目立ち、朝夕は冷え込むようになって来ました。

成田を出発してから、ロスアンゼルスを経由し、リオデジャネイロで乗りかえを含めて三十四時間でフエノスアイレスに到着し、休む間もなく次の日から日本人学校へ出勤しています。

最初の二週間は、旅の疲れもあり、眠くて眠くてしかたがありませんでした。子どもなどは、食事をしながら居眠りをする始末です。日本とは日時がちょうど十二時間遅れています。

日本人学校は、小学一年から中学三年まで各学年が十名ほどの小規模校で、民家を買って教室として使用しています。したがって、運動場は、猫の領ほどの広さですが、子ども達は元気にボールをけって走り回っております。日本とはほぼ同様の

授業内容ですが、スペイン語を履習しています。給食も実施しており、近くの食堂から出前をしてもらっていますが、肉などが冷えて固くなっており、日本の給食の方が数倍食べやすいです。

土・日曜と休日のため、月曜から金曜まで七校時（水曜は職員会議のため五校時）で追いまわられています。子どもは全員スクールバスで登下校しており、午後四時五十分以降のバスが学校を出発して一日が終わりです。

土曜の午後は、日本の部活動と同様のスポーツ活動が行なわれており、生徒はこれを楽しんでおります。

私は、中学二年の担任で、数学・国語・体育を教えています。素直な生徒ばかりでよく勉強をしますが、はじめをつけにくいのが欠点です。私の子どもも、中一男・小五女・小一男に在学しており、親子ともにやりにくい時もあります。関東地方出身の子どもが大半のため、親子共に岡山弁を使わないようにと苦労しております。

アルゼンチンは、日本と多くの面が異なり、とまどうばかりの二ヶ月間でした。市内は東京のような大都会ですが、道路は車が猛スピード出る出しており、歩行者は命をかけて道路を横断しています。歩行者は、信号は無視して横断できるときをねらって渡るといった具合です。バスは、ワンマンバスのため、運転手がバス代を受け取り切符を乗客に渡します。その作業をバ

スを走らせながら行なうため、(片手運転はおろか、ろくに前方を見ないときもあるのです)ぶつかりはしないかと気が気ではありません。バスのドアは開いたまま走ったり、急ブレーキはしばしばです。

言葉はスペイン語ですが、まだ全くわかりません。買い物はジェスチャーでやっています。店は、土曜の午後と日曜終日は閉店しており、買い物をするのに不自由です。商品は、日本製よりは粗雑であり、特に電気製品は高価な上にお粗末です。わがアパートの冷蔵庫は、新品の大型で見かけはいいのですがドアがきちんと閉まらず、冷却能力も弱いものです。また、洗濯機にいたっては、ものすごいモーターの音で振動がひどく、洗濯機自体が移動してしまい、かんじんのよこれは落ちません。食料品は、日本よりは安価で、特に牛肉は安く、ロース一kgが日本円で五百円ぐらいです。日本食品もこちらの業者が作ったものが入手できますが味が今一歩です。わが家では、和洋せつ中のような食事をしています。

この国は、インフレがはげしく、この二ヶ月で物価は二倍に上がりました。われわれは、給料がドル支給なので、あまり影響はありませんが、こちらの人は、物価の上昇に給料の上昇が追いつかず生活は苦しくなっています。

そこらは、ますます暑くなりますが、健康に留意され、一活躍ください。

敬具

昭和六十年六月二十日

佐川 慶三

アルジェだより

一九八五年八月末日

アルジェ日本人学校 垣見憲治

皆様お元気ででしょうか。私のアルジェリア研修出張もあと七か月を残すのみとなりました。当初、三年は長いと思つたものですが、暮してみると意外に日々は早く過ぎてしまいました。いくら三年とは言え「住めば都」という通り、毎晩断水になろうと、時々一時間ぐらい停電になろうと、欲しい品物が店頭から姿を消そうと、慣れも含めて結構楽しくやっています。

では先ず私の近況から：今までのところ大病もせず、風邪と過労以外は寝たことはなく、何とか無事に過こしています。今年度は小学三年生の担任になり、昨年の小四に引続き小学生を教えています。子ども達は、商社の子弟が多く、いろいろ不便の多い当地で明るく勉強しています。数が少ないので人間的接触も十分でき、やりがいがあります。相交らず発問や板書の字で苦労しています。書き順をまちがえると小学生はまちがって覚えてしまいますから、今まで自分がいかに大きっぱであったか反省させられます。小学生を教えるのは本当によい経験です。さらに、中学一、二、三年の社会、中二、三年の英語も教えています。このうち、中二、三年は複式授業ですが、絶対時

間数が足りず悩んでいます。彼らは帰国後受験があるので端折って教えるわけにはいかず、進度では苦労が絶えません。私にとって、昨年の「スクールバス係」は大変苦労でしたが、今年に割に地道な係になりました。学習係として子どもたちの学習発表会や海外子女作品コンクール、学校文集などを担当しています。また、職員研修として昨年完成した小三用副読本「私たちのアルジェ市」の改訂作業も手掛けていますし、同僚会の幹事もしています。この四月には、先輩達の帰国後、四人の後輩が担任、一学期はそのめんどうを見るのに大変でした。日本とは違いますから物資購入、言葉の問題で彼らをほっておくわけにはいきません。しかし、校長・教頭と「今年は自分達がいちもらったよりはすつとめんどう見てあげられたね。」と話しています。こつ書くと私達がフランス語ができるように思われませんが、単語をつないでへたな発音でやっているのです。(私については前述の通りバス係をやったので、アルジェリア人の運転手と話す機会が多く単語数は増えた)とまれ生活面の苦労は、いくら言葉につくしても日本人にはわかってもらえそうにはありません。日本に居たころ、何でもあるのがあたりまえと思つて生活していた私は何か無いと不満がありました。何も無い(少しはある)所にいると、たまにあると喜びになるのです。そういう意味では、よい経験をさせてもらっています。さて、妻はというと、一年目の日本人学校常勤、二年目の非常勤から

本年はフリーになり、今はフランス文化センターで仏語を習っています。やっと日常会話は困らない程になりました。また、当地の織物や焼き物を少しかじっています。そういうわけで結構有意義にしかも病氣もせずによっています。私達は、子どもがないからこのようにできるので、子どもものいるお母さん方の苦勞は並たいていではありません。(学校で給食がないから子ども三人いる人は、主人と合わせて毎朝四つの弁当を作る……)

話は変わりますが、この二年半の当地の変わりようは大きく半年前までは無かった所に高速道路がきたり、ビルがきたり(と言ってもそのテンポは日本のそれに及ばないが……)街も整備されつつあります。日本でも有名なカスバも再開発とかで取りこわされています。数年後にはその姿さえ見られなくなるかも知れません。もっとも住民は大反対とかで、一説では暴動まで起こり警察がおさえたそうです。野菜・果物も大きく、姿がよくなっています。二年前は、ゴルフボール大だったラングも、今は軟式野球のボールより大きいものもあります。(もっとも、いたんだり虫が食っているのは相変わらずだが)卵も何週間も手に入らなかつたものが、行列せず何時でも手に入れることができます。(ほとんど輸入)、他の物では、電池、フィルム・コーラ等はよほどでないとお目にかかれません。地元

池、東独製のフィルムもあるので、粗悪でとても使えたものではありません。良いと言えば薬は安く大体ヨーロッパ製の品質も確か、値段も日本の半分位です。(国が補助している)。この辺は社会主義らしい所です。

さて、この国について少し書いてみましょう。この国は、アフリカの国々の中で最も健全な財政と言われ、(石油・天然ガス収入があるため)社会は比較的安定しています。日本で知られる「アフリカの飢餓」も当地では問題になっていません。サハラが広がっているのは事実ですが、アトラス山脈の北、つまり人口の集中している地帯は地中海性気候で適度に雨が降るため作物はよく実っています。(太古のローマ時代には食糧をローマへ送っていたという)今は消費の半分は輸入と言われますが、その原因は人為的政策的な欠陥からと言われます。また、最低賃金法が守られているのと、社会保障もあるので、南の方のように「極貧」死というのではないのです。さらに当地で治療不可能な患者は、国費でフランスまで治療に行かせてもらっています。現に大家の次女は半年もリヨンの病院に入院させてもらっています。一家の「人口」が親子で十人位はざらの当地で、頭さえあれば何人でも大学に行かせてもらえるので、日本のような教育費の悩みはありません。日本の話をしてもらえませんが、入試に当る「バカコレア」は競争率

十倍とか二十倍とかで、合格する方が珍しいのですが、またイ
スラム教の影響の強いことや警察力の強さから凶悪事件は日
本よりはるかに少ないと言われ、こそそろそろやすりが多いのも特
徴です。そろほうと言えば、私達の家の周辺の日本人を含めた
外人の家はかなり被害に会っています。いわく「ビデオデッキ
グイアモンド・キャッシュ等々」「うちは無いから大丈夫」と
変なところで安心しています。コーランの教では無い者があ
る者からもうつのは当然のことなのだそうです。このように見
てくると、アフリカの中では比較的安定した国と言えるでしょ
う。しかし、現在多くの問題をかかえているのも事実です。最
大の問題は貧富の差の大きいことです。社会主義でありながら
その差は日本より大きく金持ち富豪に住み、さらに外国人に
家を貸して外貨をかせき、ベンツに乗り、ヨットを持ち、年に
数回はヨーロッパに買い物に行く反面、貧しい人々は、月千五
百ディナール（七万五千円位）位の収入に家族八〜十人で三部
屋のアパートに住み、もっと下の方は家もなく谷間のバラック
に住んでいます。また、高級官僚・上級軍人は優先的に一戸建
てを格安で買えるのに普通の人は十年待っても家が手に入らな
い現状です。このような貧富の差には国民の大多数が不満を持
っていると言われています。さらに物価高で、牛肉中一匁五千
円位、えび一匁六千円、ピーマン四千円、たまご一個五十円等
等、収入の割には大変です。加えて、イスラムの行事の後は、

物が市場から姿を消します。

次の問題点は人口増加です。出生率はアフリカ一、二?と言
われ、人口の半分は二十才未満と言われるこの若い国では、学
校建設・教員養成が追いつきません。いきおい小中学校では二
部、三部制をとる所もあり、学力の保障が十分ではありません。
一度見学に行きましたが、教室にあるのは、黒板・机・いすだ
けで、AV機器も何もありませんでした。一つだけ感心したの
は、生徒の授業中の態度でした。熱心でいっしょうけんめいで、
ちようと昭和二、三十年代の日本のようでした。

次の問題は、就職のことで、工業化のテンポの早いこの国
でも、学校を出ても仕事のないことです。国は何か年計画とか
称して努力し、雇用の促進に努めています。が、昼間から職のな
い若者が街にあふれています。と言っても日本のようにすぐ非
行犯罪に結びつくという危険なものではなく、たばこを吸った
り雑談をしているだけで表情も明るいのですが、問題化してき
ているのは事実です。

次の問題は、社会主義的非能率?です。農業と商業以外はす
べて「官営」なのですが、競争がないので能率が悪く、役人の
仕事ぶりは日本の比ではありません。何か用があっても部署を
たらい回しにされ、最後に「来週来い」なのです。商人た
ちはおよそ愛想というものを知りません。八百屋で「これは悪
いので替えてくれ。」と言つと、「いやなら買うな。」と言わんば

かりに袋の中の物を箱にもどしてしまします。「こんな店、日本だつたらどつくにつぶれているね。」と話し合っています。日本の会社も多くプラントを手掛けていますが、日本の技術者が帰国するとたちまち工場が止ったり、生産が半減するそうです。これらのことは、社会主義からか、長い仏植民地のせいか、アラフ人のためか、発展途上国だからかよくわかりませんが、大きな問題と言えそうです。その他、まだまだありますが、紙面の関係から今回は省きます。このように見てくると、先の見通しは暗いように思われ、現に、「この國の将来はない。」とまで言い切る人もいますが、私は、どんな國でも問題を抱えており、(日米英独仏)むしろ、二十数年前までは、フランスに百年以上も主権をにぎられ、アルジェリア人は中学校以上は行かせてもらえなかつたにもかかわらず、他のアフリカ諸国よりも健全な政治で足が地についた歩みをしていることを評価したいと思えます。もし、アルジェリアに明日がないなら、アフリカの将来はない様な気さえしています。

私達は、幸い大家の家族がとてもよい人達で家族の一員のように扱ってくれます。大家は元学校長で、二子の市長を勤めた人で教育者、母舅は仏語教師、長女は大学講師、次女、三女は大学生、次男は電々公社、四女は高校生、三男は浪人中です。大変インテリファミリーで話をするに政治・経済・歴史の話になります。もっとも女性はその常、食べ物や服の話が多い時

もありですが、妻は日本食を作ると持って行き、異國文化の紹介をしています。向うは羊祭の後、羊の脳や足の二つた煮、手作りのケーキをよく持ってきてくれますし、料理のし方も教えてくれます。私にとって、言葉は十分通じなくても、誠意をもって話す心が伝わってきます。たった二年半のつき合いとは思えません。顔形は違つても人間同じだなどあらためて思うのです。先日、長男が、「もつ半年しかないのかもつと居ることはできないのか。」と残念がってくれました。

この様に、まずは精神的に充実した日々を過ごしています。残る半年、仕事・生活両面がんばりますので、どうぞお忘れなき様、お願いいたします。

ラゴス日本人学校
笠岡市立飛鳥小学校 秋本賢治

拝啓

サハラ砂漠から飛来する、極小の砂粒が濃霧のように町を包み、この期待有の景観を見せています。こちらラゴス

ハルマタンともハマタンとも称され、運動会(一月二十七日予定)の始まる頃までこれは続きます。

日本では、師走の忙しい中、「優勝でお越しのこと」を拝察いたします。

小生もお蔭様で元気に過ごしています。

いづぞやは、「国際理解・第二号」を送付くださいます。ありがとうございます。諸先輩の海外での経験を、とても興味深く眺ませていただきました。とかく、ストレスの蓄積され易い異国の生活の中で、諸先輩の苦勞、一努力を拝読させていただき、「われのみにあらず。これしきのことで」と自嘲することができ、勇気づけられました。本当にありがとうございます。

当地に来て、もう一年八か月、三年の任期の折り返し点も過ぎてしまいました。多くのこちらで人は、返りは遠いと言います。たしかにその通りで、毎日が慌しく、風のこづく飛ん

でいく感じがします。今日は、十二月三日、今年もあとわずか。新年には、前述の通り運動会やら校内キャンプやら、三年の任期を終る帰国する教員の追い出しコンパやらと多忙なスケジュール。そのうち四月を迎えればこれがNIGERIAでの最後の年度。なるほど、任期満了までは遠くはありません。

当國での二十か月、水と電気と人間関係と、日本ではどうてい考えられぬ前二者の悩みが生活の上に大きく響き、そのことから起る日本人同志の人間関係の不調和「アフリカ地の果て」と日本人には言われるこの大陸に来ての同朋のささいなことから起るトラブル！

これらのことを、日本に居る時は全く考えてもみませんでした。小生にとつては本当に大きなこれからの人生の中で意味のある経験になります。日本人学校の子どもの逞強をみに来たというよりも、まさに小生の場合は、人生の勉強に政府と真が派遣させてくれたと考える方が安当なようです。

さて、生活を具体的にお知らせしますと、前述の水と電気の不足から始まることになりましたが、水は昨年暮れのクーデータ以来、公共水道の充実が図られたせいで、日本人学校七教員家族のうち、二家族には九十%ほどの給水があります。しかし、残り五家族には、二家族が十%ほど、三家族は全く給水されないという現状です。これは、住む地域によって違いがあるとい

うこと、簡単に言えば家賃の高い地域ほど給水され多いとい
うところですよ。学校とわれわれの出資とで水タンカー車を買
い、各家庭にある水タンクに一日おきに給水していますが、
この水とて、赤褐色に濁っていて、初めて見たころは、ろ過し
てもどうして飲む気になれないような水でした。しかし、慣れ
るとは実にすばらしいことで、今は何とか嫌悪感もなくこの水
を利用しています。

次に電気ですが、これも家賃と平行していると云ってよさそ
うで、われわれの家庭が最悪条件のようですよ。それでも、これ
もクーラーから後、この年の七月から定期的に給電されるよ
うになってきました。つまり、一日おきに電気が来ます。しか
し、給電日も、二十四時間来るといふわけではなく、十〜十五
時間ほどです。電気の来ない時は、各家庭にある発電機で電気
を起すのですが、まる一日使うというわけにはいかず、これ
も機械と相談しながらという現状です。といたしますのも、故障
しやすい環境（自然的にも人為的にも）にあるからであります。
こういう生活の上に本務がある訳で、任期終了に近くなると程
ますます自分は何の為にここに来たのだろうかという疑問にか
られるというのが真実のところでしょう。

しかし、子ども達はたくましいです。親や教員の悩みをもの
ともせず、生きています。昨日、ラゴスで最良のホテルを借り

ての学習発表会が行われましたが、もちろん、初めて踏む舞台
の上で、劇やおどりを堂々と演じ、会場を埋めた約三百五十人
の日本人から盛大な拍手を受けました。この子らの姿を見る時
われわれはやはりいろいろなことを学びに来ているのだと痛感
するのです。

最後の一つ、勝手なことですが、お願いしたいことがありま
す。もし、今後、本やお便りをくださるようなことがありま
す場合、お書きに日本人学校とはお書きくださらないようぜひお
願ひいたします。われわれ日本人学校は、当国政府から認可さ
れていません。したがって名乗れない立場にあり、日本大使館
でも呼称については極めて気を使っているわけで、ご斟酌くだ
さいますようお願いいたします。

未審ながら、どうぞご健勝で
そして、よきお年をお迎えくだ
さいますようお願い申し上げます。
おります。

敬具

クワラルンプール日本人学校における

国際交流・国際理解への取り組みについて

クワラルンプール日本人学校 増田節男

1 学校の概要

本校は、K.L.市内から南西約八哩離れたタマンセアテ公園の中にあつて、極めてすぐれた環境にあります。鉄筋二・三階建校舎が七棟あり、そのうち二棟は今年八月完工。特別教室：十一教室・多目的ホール：一は、二期から子ども達が専々として使用を開始しています。運動場は、やや狭いが、校舎前に広がる市民広場等があつてのびのびとした環境を子ども達に与えてくれます。

全教室にエアコン・OHP・スクリーン・その他視聴覚機器が整備され、学習環境もいちだんと充実しています。それだけに児童生徒の学習活動にも活気があります。児童生徒数は、約七百名ですが、生活指導上の問題は殆んどありません。その理由の一つに、TVからの影響がまずないこと、晚餐、家族団らん、の機会が多くとれることが挙げられます。これも在外校および在外生活の一つのメリットかもしれません。

教職員総勢四十五名ですが、常に「協調と和」、「節度ある言動」を合言葉に、子ども達や父母の信頼にこたえる教師たることを互に自覚しながら精出していきます。

2 国際交流・国際理解への取り組み

学校全体の取り組みは、学期毎に一回、年間計三回学校行事に組み入れて取り組んでいる。詳細は、

小学部は、低学年・高学年に分け、二日間にわたって実施する。

但し一学期のみ。二学期・三学期は学習発表と国際

交流を併合して行つて一日限。

中学部は、学期一回で、三学期は国際交流のみとし、二学期

は、学習発表と国際交流を組み合わせで行つ。

活動内容は、日本文化の広い分野にわたって紹介します。主な

ものとしては、日本舞踊

茶道・生花・日本料理な

どの実演から始めて、絵

画・彫刻・工作・製作活

動に至るまで、すべて英

語で説明しながら行つて

います。

また、分科会では、そ

れぞれテーマにそつて話

し合いを進めます。一、

二出たものを紹介します。

①日本はなぜ単一國語だ
けなのか？ 友だちに



なりたくとも言葉が通じないので困る。

②日本は、アトム（原子核）の一番初めの犠牲国だ。

③日本は、武士（サムライ）の国、豊かな国。

④その他

こうして、学校行事の中での取り組みとは別に、クラブ活動の延長として、国際親善対抗試合を年間数回行います。参加クラブは、バレーボール・サッカーボール・バスケットボール・柔道・剣道・音楽クラブ・演劇クラブ等です。要は、いろいろな活動を通して現地の友達と仲よくなることは、まことに結構なこととしています。

以上、とりとめの
ないことを申し述べ
ましたが、国際交流
国際理解への取り組
みの現状報告としま
す。



ると思います。1つは、毎週日曜日には必ずあるサッカーの試合が、ま、たくな
か、たこと。もう1つは、11月ごろが統計的に、赤ちゃんの出生数が多いとい
うこと。つまり、カーナバル・ベビー。

〈学校行事から〉

～卒業授与式～

3月11日(月) 小学部第9回卒業授与式が行
われました。本年度、卒業生3名。全児童生徒、
全PTA会長 総領事 運営委員会の出席でした。
式の流れなどは、国内と大差なく 約40分ほ
どで終了しました。式後、全員で記念撮影。卒業
生たちは 証書と運営委員会とPTAからもら
った記念品と赤白まんじゅうを手に、喜びをかみじ
めながら帰宅していきました。

～終業式～

卒業式と同じ日、卒業式の2時間前に行われま
した。岡山にいた時は、卒業式の方が終業式より
数日前に行われていたので、終業式に6年生が出
席するというのに何となく抵抗があります。し
かし、他の道県では、そのようになされていると
ころもあるようで、所変われば……です。

やっとできた!

副読本

本年度校内研修で取り組
んできた「小学校社会科3
年副読本 わたしたちのま
ちベレーン」の製本が完
了しました。

この本の特色は、写真を
使わず すべて(実は1ヶ
所だけ写真)図や絵で表し
ているということです。

私も何枚かの図や絵に挑
戦しました。しかし、悲し
かな 栓心のない私のこ
とですから、どれだけの人
に理解してもらえることや
ら……。

・あとがき・

日本から2万キロ、地球の裏側ベレーンに赴任して2年が終わりました。とい
うことは、あと1年しかこの地にいることはできません。実は、もっと早い時期
からこのようなお便りを差し上げようと計画していたのですが、なかなか実行に
移すことができませんでした。

2年間の蓄積をもとに、もう一度こちらの生活をふり返りながら 書き綴った
と思います。もともと筆不精の私ですから、思うことをうまく文字に表せ
ないかと思いますが、その際には、遠慮なく御意見、御感想をお知らせ下さい。

Bom dia!
(notícia de Belem)

No. 1

ブラジル
ベレーン日本人学校
荻田 浩
1985年3月15日

~Carnaval~

カーナバルと聞けば、すぐに、リオのカーナバルを思い起こされる方がおられるでしょう。しかし、ここベレーンでもカーナバルは行われているのです。

今年は、2月16日夜から20日早朝にかけて行われました。特に、16日夜から翌朝までは、特設会場でコンテストがありました。

夜8時、サイレンの合図とともに、最初のグループのスタート。制限時間30分。この間に500mほどの会場のスタートからゴールまでを踊り歩きます。

2~30人の家族的雰囲気を持つグループC (~100人) から始まり、100~1000人のグループB、1000人以上のグループA、そして、3000人近い規模を持つサンバ学校のグループ(制限時間1時間)が順次出場します。

次第にはなやかになり、朝の4時ごろになると、グラビアで見るような衣装をつけたグループが出てきます。また、山車も大がかりなものへと移っていきます。

私は、6時半ごろまで見ていましたが、そこまでが限界と感じ家にもどりました。その日は、10時に終了したそうです。

カーナバルは、その期間だけがカーナバルではなく、年を越すと始まると言、ていようです。初めは、小さな食堂のようなところに集まって楽器の練習にはじまり、1月の終りごろの土、日になると公園に集まり、音楽にあわせて踊りの練習をします。特に日曜日は、街頭を行進しながら各グループごとに練習します。この時、日本のようにいちいち警察に届けてするわけではありませんから、交通整理などありません。車の通行などお構いなしですから、渋滞があらちこちで起きます。そのため、町じゅう楽器の音とクラクシヨンの音とで賑やかになり、耳慣れないものにと、ては、まるで騒音地獄です。

コンテストの行われる会場以外でも、あらちちにあるクルービ(クラブ)でも催しが行われます。体育館のようなところに、テーブルを置いて、飲みや踊れやで夜を明かします。

このカーナバルがどれほど熱狂的に行われているかが、次の2つのことでわか

「もしも（もしも）火が打ち上げられれば、（もしも）もしも見ていなくても、高に
飛ぶが（もしも）（もしも）（もしも）の定数かかっています。

昨年2年の（Copa do mundo (川の赴任前) のときは、ブラジルの試合の
日には、休校を休みになりました。その理由は、ブラジルを応援するためにではな
く、在平校を含め死傷が多くなると判断されたからだそうです。というのは、先
にも書きましたが、トラックに人を巨くさん積み、旗をふり、クラクションをな
らして、道中を走りまわります。トラックに限らず、オートバイ、普通車で走り、
まわらぬですが、この時（これは無免許、免許を奪はるとい、た危険な行為が
ふえるのだそうです。

このような特別な場合を除いてみても、ブラジル人のサッカーに対する熱意は
すごいです。

は、きりした教はわかりませんが、プロチームが100はあるのではないかと思
います。日本のプロ野球と比較してください。このプロ・チームだけでも3チーム
あり、うち大収むでむるサッカー場もありです。

プロに限らず、チームは教え切れないほどあり、女子チームまであります。サ
ッカー場しいたるところにあります。

休日には、交通量の少ない道路、公園、道幅の広い分離帯がサッカー場に早が
わりしています。4〜5才ぐらいの子どもと打つにキックの練習をさせている父
親の姿も見かけます。

ブラジル人は、丸いものがあれば、すぐボールにしています。やしの実、みか
んなど。

かちもうまく、あるクラブ（飲み屋）で結成している
チームと日本の某進出企業の社員のチームとが対戦した
結果、6対0で女子チームの方が勝ちました。我が日本
人学校教職員もどこかと合併して、近い将来、お手合
せをして取こうと計画を練っています。



7月5日 七夕集会

例年行われている七夕集会が今年も開かれました。

今年は、新しい企画として、第一部と第二部にわけて、第一部「七夕」、第二部…
シン・ジョアンにして集会を楽しみました。



Bom dia!
(notícia de Belém.)

No. 5

ブラジル

ベレーン日本人学校

河 田 治

1985年7月15日

暑中お見舞い申し上げます

ここ 南夏の街ベレーンも、長い雨季に別れを告げ、暑い暑い乾季にまもなく向かっています。年中25℃を下ることのないここでは、いくらかの季節の変化はあります。乾季は、雨の降る時間が短いかわりに、バケツをひくくり返したような雨が降ります。

今年の日本の夏は、いかがでしょうか。あちらこちらのビアガーデンに花が咲き、白い泡がジョッキをつたって落ちる様子を想像すると、のどかなります。

私の任期もあと8ヶ月、腰を落し、早く帰りたいと思っています。

どうか、皆様も健康に留意され、よい夏を乗り越えられるようお祈り申し上げます。

～サッカーの国 Brasil～

来年のCopa do mundo (ワールドカップ)にむけ、ブラジルも南米地区で予選に勝ち抜き、見事出場権を獲得しました。

試合は、日曜日の夕方、テレビで放映されます。試合のある日は、朝からトラックの荷台に多勢の人々が乗り、ブラジルの旗をふりながら走っている光景を見かけます。また、街角では、旗を売っています。試合が始まるころになると、街のあちこちで花火が鳴りはじめ、街中は、ブラジルチームに期待をかけます。

試合が始まると、それまで走っていたバスの音がやみ、街行く人の姿もなくなり、一変に静かになります。

ブラジルが得点でもしよものなら、テレビのアナウンサーは、「ゴオオオオオオオオオ、ブラジイル」と声の限りに喜び、街中では、旗を掲げていた人たちが、一斉に花火を打ち上げます。

昼寝をしていた子供が、その音に驚いて目を覚ましたり、オムツをむらしたり、

は そのあとじわっときてきます、全体に油っぽくて日本人の口にはあまりあ
いそうにありません。ただ、先々週マラッカのホテルで食べたマレー風デザート
はたいへん美味でした。これは米を材料にしたプリンです。皿の上に ぽたぽた
つぶの見えるプリン型の山があり 底を茶色のシロップがひたしています。この
まま食べてもおいしいし、さらに、上からココナツミルクをかけてもおいしい
です。

パンスペシャルミーを食べたのは空港レストランでした。米を原料にした麺
の上から汁がかけられています。うどんのようなものと思って食べましたが、そ
の味はるやもう……。すごいです。日本の焼き鳥にそっくりなのが「サテー」。
ただし、くしは竹ではなく、やしの葉のせんいを使います。やや甘味。

インド料理もまだちゃんと味わっていません。(その辛さが恐ろしくて)が
学校の近くにあるインド人街、ブルックフィールドではカレーを売っています。
皿を使いません。バナナの葉の上にご飯が盛られます。インド人はルーもい
っしょに手を使って上手に食べてしまいます。我々の仲間うちにも、手で食べる
人がいますが、たいていはスプーンを使います。味は申すまでもなく、辛い。一
口食べて、あまりの辛さに「こんなもん食えるか」と思うのですが、どうしてど
うして、この暑さの中にあると、辛さが次第に舌になじんでくるから不思議です。
辛いのは苦手、という人も結局は全部食べてしまいます。

もう一か所、スタジアムのそばの屋台でカレーを食べた時は、ルーが4種類あ
りました。中の肉が、マトン、チキン、ビーフ(この店のインド人はヒンズー教
徒ではないのか?)フィッシュとなっていました。目の前でこちらが叫ぶのルー
を指差せば、おやじさんがそれをご飯の上にかけてくれるのです。ルーからもり
あがった肉の塊には適当にハエが群らがり、まことにインドらしい雰囲気の中で
カレーを味わうことができます。

マレーシアだより NO. 1.

1985. 6. 10

AWAN

K. L. 日本人学校

岡本 善弘

4月10日にクアラルンプールのスパン国際空港に降り立ってはや2か月が過ぎました。驚きととまどいの4月。興味津々の5月と続き やや落ち着きの出てきた今月になって ここマレーシアでの生活を少しずつ手とめてみたいと思うようになりました。そこで、学級通信風に書いたのがこのマレーシアだより「AWAN」です。書ける時に書き、いつでも休刊に入る心の余裕をもって、まずは第1号「食べ物編」をお送りいたします。

こちらでは マレー料理、インド料理、中華料理と、何でも食べれるので(マレーシアは、マレー人、インド人、中国人の複合民族国家)自然と外食は多くなります。地図をたよりに 今日にはK. L.(クアラルンプール)明日はP. J.(パタリングジャヤ)と食べ歩くわけですが、でも、これではあまりに出費がかさみますので、最近はやや自炊しております。

さて、マレー料理とは何か。これは未だもってよく分からないのですが、香料を多く使った料理であることは確か。チリ(シウガラシ)がやたらに使われています。マレー人はイスラム教徒なので豚肉は絶対に食べませんし、酒も原則としては飲みません。ある時、マレーレストランでビールを注文したことがありましたが、丁寧に断られました。(そんな不謹慎なものは置いていないのです)メニューを見てもよくわからないので、適当に指差したら、チキンの足を二、三本、ケチャップソースで煮たものと焼きめし(ナシ、ゴレンといいます。ちなみにミー、ゴレンは焼きそばをあらわします)それに魚を同じくケチャップソースのようなもので味付けした料理が並びました。一口食べてもどうってことないのですが、チリ

マレー、インド料理に比べて、やはり中華料理は食べたいと思えます。そうそうスチームホートも名物です。日本のなべ料理と同じ様なものです。4〜5人分の量が入るなべがあって、下に炭火が入っています。最近知ったのですが、こちらでは古いゴムの木を切り倒して炭を作っているとか、日本人の中にはその炭を買ってきて、庭でバーベキューを楽しむ人もいるそうです。

中国風のおでんもありまして、ヨンドーフと呼ばれています。味は塩がきつくて日本のほどコクがありません。

マレーシアに来て、あくまで日本食に固執する方も結構御無用。すし、すき焼き、鉄板焼、豚汁、おこのみ焼き、たいやきに至るまで、こちらで口にすることが出来ます。夜の街で日本式キャバレーをさぐることも可能です。マイクを握って演歌を歌うのもあなたの自由です。

自宅から真西の方角、約10Kmのところにあるスーパーの名は「キミサワ」、静岡のスーパーだそうですが、ここでは日本食は売っていません。ちなみに我家の台所には、インスタントラーメン、永谷園のふりかけ、ハウスのわさびチューブなどもちゃんとそろっています。キミサワから帰る時は、出口近くのスタンドで、たこやきを買うもの楽しみです。

マレー、インドときちんと分類することの出来ない料理もあると聞きます。そう言えば我家の料理もその部類に入りそう。中国製の茶碗、はしを使い、ハチマのように太いキューリをつまみ、チリをかけたステーキを食べ、マレー米にふりかけをかけて日本をなつかしめています。

最後に牛肉ですが、日本の半額から3分の1の安さです。オーストラリアからの輸入と思われれますが、関税がぐっと低いのかもかもしれません。肉好きの人にはマレーシアはいいところですよ。

ただ、やはりこの辛さには注意しないといけません。新入りのウ先生（岡本ではない）はカレーを食べたあと「ち」になったといいますから。

その他にもインド料理にはいろいろありそうなのですが、まだ十分に調査しておりません。ひとつには辛すぎて子ども（絵里）の口には合わないという事です。

K. L. は人口の半分以上が中国人という街ですから、やはり中華料理店によく行くこととなります。お金のない時は屋台でラーメンを食べるといいでしょう。一杯が200円くらいで食べられます。中に入っている麺の太さ、種類も色々。肉も、豚、牛、チキン、鶏など色々。ただ鶏はややくさみがあり、油が口に残るように思えます。（人によるのかもしれませんが）

中国人は宗教の制約もなく、何でも食べます。市場へ行くと、トカゲやハビの類までも皮をむかれて売られているくらいです。

魚介類は豊富で、エビ、カニもどんどん食べられます。ケチャップ煮、ソース煮が多いようです。日本では魚のあんかけが中華料理店でよく出てきますが、こちらでは、もっぱら「まなかつお」です。甘せか。この魚が一番人気があるそうで、当然魚のあんかけもまなかつおであります。身は日本で食べるのほどひきしまってなく、ややくさみがありますので、フライにした方が食べやすいそうです。

鉄板の上で肉を焼いて食べさせてくれる店もあります。日本と違って肉の切り方が非常にうまいのが特徴です。でも、とてもおいしい。

あと、めずらしいところでは、一通り食べ終わったあと、デザートがぜんざいであったという店があります。器を見ると一見ぜんざい。そして食べてみるとやはりぜんざい。口の中にあずきの皮が残って、さわやかに席を立つことができます。（理解不能）

一化政策のひとつの結果でしょう。公用語をマレー語ひとつに定め、教育や公務員試験などはすべてマレー語でやるのです。そのため人種はあろか、世代間にまで言葉の壁がでるという奇妙な現象が起こってきます。

中国人はそれでも国の経済をしっかり握っていますから、国家という意識は弱いような感じがします。外国人の留学生も多く、ダニーの弟フレディはシンガポールの大学生です。妹もオーストラリアに留学していると聞いています。学校のN先生に言わせると、中国人はマレーシアへの愛国心などなく、経済力を持つことを最大の誇りにしているとのこと。ここにマレーシアの大きな矛盾があるのです。政治を進めているのは確かにマレー人であるけれど、重要な経済がその手中にないという。これが複合民族国家マレーシアのひとつの側面です。

中国人でありながら、ダニーとかフレディとかの英語の名が出てくるのは、彼らが洗礼をうけたクリスチャンであるからです。中国人で都市に住む者は、多くがクリスチャンです。ダニーの中国名は「善楽」と書きます。善が姓で発音は「シン」、僕の名にも同じ字が使われていることを話して、二人で感激し合いました。しかし生活する上ではすべてダニーで通しているようです。

次にジャンケンの事を。バドミントンのペアを決める時ダニーが「ジャンケンでやろう」と言ったので、「中国式ジャンケンがあるの。」と問い返したところ「もちろん。」ときました。まず「パー」ですが、形は日本と同じで水をあらわします。「グー」も日本と同じで、これは石。「チョキ」は形が違って、五本の指先をひとつにまとめて出します。意味は鳥の頭。(口ばし)もうわかりと思いますが、鳥は水は飲めるが石は食べられない。水は石を沈めるが鳥に飲まれる。そして、石は水に沈むが鳥には食べられないというわけです。

これにもいたく感激しました。

さて、彼はスポーツ通で、特にバドミントンやサッカーの試合をよく観戦に行きます。



マレーシアだよ

AWAN

クアラルンプール日本人学校

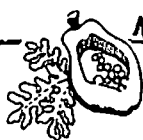
岡本善弘

1985. 7. 31

No. 5.

＝ダニー編＝

K. L. 日本人学校は、小学部から週二回の英会話の



時間がカリキュラムにあります。この授業を担当する先生は全部で4人。山下先生、Mr. ダニー先生、Ms. メイ先生、Mrs. ファン先生です。山下先生以外はすべて中国人で、それぞれに特徴のある人達です。Ms. メイは臨時講師という形



ですので職員室でお目にかかることはあまりありません。(美しい方なので少々残念ですが) ペナンの大学で4年間学んだ後、K. L. の国立マラヤ大学の日本語コースで1年間勉強した人です。ルックイースト政策以来、日本語を学ぶ学生が少しずつ増えているようです。

さて、今日はMr. ダニーについて。

彼は26才の独身男性。何となく気が合ってよく行動を共にします。バドミントンの練習はいつも彼といっしょです。三人の先生の中では一番日本語が上手ですので、日本語を通じてこの国のこと、人々の考え方を教えてもらうことができます。

たとえば言葉のこと。ダニーの家庭内の言葉は複雑です。彼の両親は中国の広東語をしゃべるのですが、同時に中国のその他の地方の言葉(北京語、福建語など)も理解できるといいます。しかし、ダニー達子供は広東語しかわからないし、両親と話す時にだけ広東語を使い、兄弟同志だと英語を使ってしゃべっているのです。彼は「そんなムードなんだ。」と言いますが、日本ではちょっと考えられないことです。さらにダニーより年下の年代の若者になると英語もあやしくなって、マレー語だけわからない人が増えているそうです。これはマレ

は。笛の合図と同時にかいっはい引くだけです。イギリス人やマレー人に日本の「オーエス、オーエス」式のつなひきを見せたらどんな顔をするでしょうか。

リレーもたくさん見せてもらいました。これも日本と違ってトラックは使いません。(中学生に至るまで)男子4人、女子4人が50m~80m間隔で向かい合ってバトンを受けわたしをするだけです。つまり、コースは直線のみ。バトンタッチもすれちがいざまにぶつかるようにやってしまうというたいへん乱暴なものです。日本ならばトラックリレーに近い形を求めますが、これも全くおかまひなしでやっています。

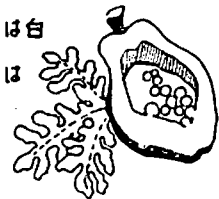


見学の子ども達は、体育館の前の日陰に腰をおろしていました。青、赤、黄、緑のチーム対抗で、得点は放送席のそばにかかげられていました。これは日本のやり方と同様です。しかし、応援団のようなものはなし。子ども達はめいめいに、友達やチームに応援の声をかけ、拍手をします。特に「Inan School Relay」の時にはどこからともなく「ALICE SMITH!」の声が起こり、だんだんとそれがひとつになってついには全員が「ALICE SMITH」の大コールとなりました。とても自然に、そして力いっぱい応援する声に好感が持てました。

日本人の子供とはちよつと違う感じがしました。見学中に少々しゃべっていてもいつまでも周囲と無関係に続ける子はいません。今現在何をやっていて、自分はどうすべきかわかっているようです。「個」がしっかりしているのでしょうか。

中学部のレースは、見事アリスミスが一着。ゴールの瞬間、子ども達は大観音と拍手。そして多くの子が本当にとびあがって喜んでいました。日本人学校は、小学部二位、中学部三位という結果でした。健闘したのはインドネシアンスクール。平均身長が一番小さいのに安定した走りで一、二位を勝ちとりました。

アリスミス校のユニフォームは色が決まっています。シャツは白、ショートパンツはグリーンです。日本で女子がはいているアルマはめずらしいもののようです。



マレーシア産より

AWAN

クアラルンプール日本人学校

岡本 善弘

No. 7

1985.7.20.

—アリスミス 編—

今日は二つのローカールスクールを訪問する機会がありました。午前中、アリスミス校、午後はクンチン校です。

アリスミス校、英国系の小・中並設校です。かつてはイギリス人の子供だけの教育にあっていたようですが、今では現地の子もほとんど受け入れています。インド人もいます。中国人もいます。そして小数がながら日本人も。

しかし、大部分は今でも白人（イギリス人）で、学校の持つ

雰囲気はやはり英国のもので、校長は女性、先生も

父兄の中から選ばれるそうです。今日は、アリスミス

校の運動会（ANNUAL SPORTS）の日でした。プロ

グラムの中に Inter School Relay があります。現地にある

色々な学校からリレー選手に来てもらって、ちょっとした国際

リレーをやろうという趣向です。日本人学校では「招待リレー」と呼

んでいて、もちろん日本人学校の運動会の時にも同様のリレーがプログ

ラムに組まれます。つまり、リレーを通じて相互に訪問したりされたりして交流

を深めているのです。今回は小学部から1チーム、中学部からも1チームを出し

ました。その引率の役が回ってきてアリスミス校訪問となったのです。

さて、ここで見た英国式運動会はなかなか興味深いものでした。会場に着いた

時、プログラムはすでに後半に入っていて、つなひき（Tug-O-War）が始まる

ところでした。つなひきはどこでもやるんですねえ。市内のグラウンドでマレー人

が大勢集まってやっているのを見たこともあります。引っぱり方には形式などな



日本の秋の菓物の代表格は 梨であります。驚くおれ、こちらでも日本の梨が大量に売られています。先日マーケットで見た段ボール箱はなつかしの鳥マーク。その横にはちゃんと、「二十世紀梨」と書かれていますではありませんか。産地はもちろん鳥取。中くらいのもの4個で160～200円くらいで買えます。日本と比べて値段はいかがでしょうか。ローカルの人にもそのみずみずしさが受けているようで、なかなかいい売れゆきです。



その後、マーケットには梨も並ぶようになりました。生のままでも買えます。場所によると日本の「天津甘栗」と同様、なべの中でかき混ぜて焼いています。ただ、日本のように機械ではなく、人の手で根気よく混ぜ続けるのです。ですから、「売ってくれ」と言っても「もう20分ほど待て。」と混ぜているおじいちゃんに言われたりするのです。

今年は秋刀魚が豊漁だそうですね。秋刀魚もどこからか輸入されているらしく、マーケットに出現しています。こちらの近海の魚はどうもおいが強くて、調理にも苦労しますが、その点秋刀魚はずんわりと口に選ぶことができます。先々週、ダニー先生が遊びに来た時、夕食に秋刀魚を出して食べてもらいました。英語では、ソードフィッシュと言うのだそうです。Sword. すなわち、刀、剣であります。その形からは、同じような名前がつけられるものですな。

雨期に入って雨がよく降るようになりました。日本のように一日中、という日はありませんが、時には朝と夕方2回の雨に降られることもありです。雲が片く、気温が上がらないのがせめてもの救いです。しかし、今の日本なら、空が次第にその高さを増し、冷えた空気を肌に感じることもできるでしょう。今夜は少しむし暑くなりました。せめて、テーブルに梨を並べて、日本の秋をなつかしんでみましょう。



秋編

秋になりました。と言ってもこちらは相変わらずの真夏日。運動会を29日にひかえて練習が続いています。この炎天下の練習はこたえます。特に、5・6年生の練習が午後に設定されていることは、悲劇であります。暑さに負けるなと子ども達には言いますが、早く日陰で休みたいのは教師も同様であります……。

季節の変わる日本を今さらながらうらやましく思います。K.L.でも時々今の季節(秋)を感じるがあります。

例えば雑草。8月から気がついていたので、ススキによく似た白い穂をいっぱいつける植物を見かけます。植物の体の中に四季のサイクルが記憶されているのでしょうか。日本と同じ時期に白い穂を出して風になびいています。

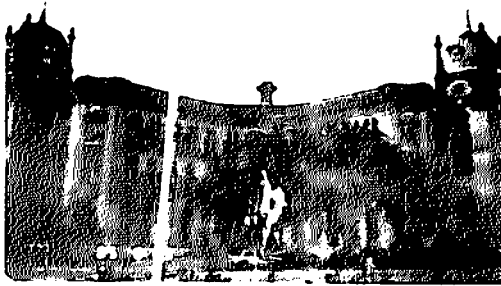
中国人のお祭りとして、28日にムーンケーキフェスティバルが予定されています。日本のお月見にあたるものです。日本ではお月見の時は月見だんご。となるわけですが、こちらではムーンケーキ(月餅)と呼ばれるお菓子がつきものです。日本のおまんじゅうと考えると、形は平べったい円柱形のものが多いです。かなり大きなもので、上面には複雑な押し型模様があります。この模様によって値段にランクがつけられます。あんがぎょっしりつまっているので、空腹の時でないといく個まるまる食べるのは不可能でしょう。私の家の月餅も冷蔵庫の中でそろそろ1週間目をむかえました。そもそも月餅は月の女神への捧物としてあるものですが、友人へのプレゼントにも使われ、今、街のお菓子屋はムーンケーキだらけになっています。子ども達は提灯を持って街をぬり歩きます。この提灯は魚や鳥などの形をしており、木のわくの上から色つきのセロハンを張って作られます。



ゴム園 (セレンバン付近)

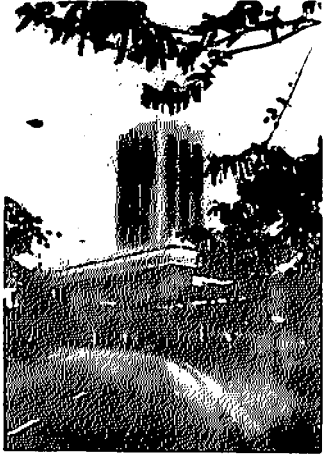


理科部会 (カプトガニ採集)



駅前の鉄道省の建物

ダヤブミ・ピルミルックイースト政策シンボル



(手前の低い建物は郵便局)



モリブ海岸からマラッカ海峡を望む



マラッカ付近の道路 ; 牛・水牛などをよく目にする

エアーズ・ロックの思い出

オーストラリア 大谷 裕 子

もう二年半にもなるが、主人の仕事のため、オーストラリアのアデレードで、二年間暮らしたことがある。楽しいことばかりであったと言えぼうそになるが、今思えば家族ぐるみで、いちばん人間らしい生活をしたのではないかと思う。

オーストラリアの旅の中で、私の心に残っているのは、なんと旨でもエアーズ・ロック行きであった。エアーズ・ロックは、最も降雨量の少ないと言われる（十年に一度も雨が降らないこともある）セントラル・オーストラリアに位置し、オーストラリアのほぼ中央にある小さな町アリス・スプリングからバスで約半日の所にある。

オーストラリア原住民途（アボリジニー）は、この地を特別神聖な地域とし、「ワールル」と呼んでいる。彼らのたどった運命、白人との血で血を贖う殺戮の歴史が、岩に刻み込まれている。そう言つて鬱陶気にする地域である。

エアーズ・ロックは、赤色の岩でできている。砂漠の中にあるにもかかわらず、岩から水がこんこんと湧き出て泉をこぼらえ、その回りには、ユーカリの木が繁っている。

日本海に沈む夕日しか記憶にない私に、見渡す限りの砂漠の

地平線へ太陽が沈んでいく様は、心臓の鼓動の高まる程すばらしいものであった。地平線上にラクダの背のような形をしたエアーズ・ロックがボツンと見える以外には何も見えない。

地平線すれすれになるまで、太陽は大きさを増しながらゆっくり動いていたかと思うと、あっという間もなく、向こうの彼方へ行ってしまい、夜の帳がすべてを覆いつくしてしまふのに、それ程の時はいらなかった。真昼のぎらぎら輝く太陽は、オレンジ色から橙色へ、そして最後は、少し黄色味を増したかのように見えると同時に、地平線の向こうへと沈み、あたりは赤紫色となった。真昼の熱風は、少し肌寒い風に変わり、しばらくは半ば茫然と見惚れていたのがあった。夕食へと急がされて帰る途中も、生れて初めて見る日没のすばらしさに、来て良かったと言つ思いにかられた。

砂漠の夜は寒く、四月と言つのに零下六度にもなり、朝五時ごろには、冬用のヤッケを着込んでまだまだ寒く、あたりは真暗であった。夜空の星は大方沈み、南十字星が見えるのみであった。何の障害物もない砂漠では、驚く程よく星が見えた。日本では、夜空の星など見えなくてあたりまえなので、いたく感激した。あたりが白々としてくると、突如として太陽が昇って来た。砂漠では、それからがさあ大変。太陽が昇るや否や真っ昼間が来た程暑くなる。砂漠は、聞きしにまさる程、夜昼の差が激しいものであるようだ。

その砂漠に住んでいる何の変てつもない黒鳥（鳥に似た鳥）
の囀りは、どの音楽よりもすばらしく、いまだに私の耳元から
離れない。

願わくは、オーストラリアの大地が永遠に変らず、そのまま
であってほしい。

（岡山県婦国子女の親の会 代表）